

児童会・生徒会活動

異年齢集団による交流

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島東小学校	校長氏名	中居 芳樹	生徒指導主事氏名	見渡 英治
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『たてわり班活動』

取組のねらい『キーワード 集団の中の一員としての意識』

- ・異学年交流での出会いを通して、人とつながる力を育む。
- ・集団の一員として活動することの楽しさを味わう。
- ・リーダーとしての自覚を持たせ、活躍の場とする。

取組の具体的内容『キーワード 年間を通じて』

- ・ 4月 1年生を迎える会……………1年間、さまざまな活動を共にしていく1年生と6年生のペアを作る。6年生には学校の中のリーダーとしての責任感をもたせ、1年生には6年生と過ごすことで小学校での生活に慣れるための安心感をもたせる。



- 遠足……………1年生と6年生のペアと一緒に活動する。一緒に弁当を食べたり、遊んだり常に自分のペアの児童を意識させることでお互いを深く知り合い、信頼関係をきずかせる。



- ・ 6月 たてわり班顔合わせ会…1年間、さまざまな活動を共にする1年生から6年生で形成する班を作る。自己紹介と簡単なゲーム、たてわり班の旗の作成を行う。



- 7月 おりづる集会……………碑前祭に供える千羽鶴をたてわり班で集まって折る。自分だけで折るのではなく、折り方を高学年が低学年を教えるなど、班という集団を意識して活動する。



- 12月 校内ウォークラリー……………たてわり班で協力し、ゲームをしたり課題を解決したりしながら、異学年での交流をする。リーダーである6年生を中心に回るコースを班員の意見を取り入れながら決めたり、みんなが楽しめるという目標が達成できるように班をまとめたりしながら活動する。



- 3月 6年生を送る会……………1年間、リーダーとして班をまとめてくれた6年生に感謝の気持ちを込めて卒業を祝う。1年生から5年生は会場の飾りつけや準備をしたり、自分の班の6年生にプレゼントを作ったりする。

- 6月から3月まで……………1年間を通じて縄跳び運動や東っこ体操などの業前運動や昔遊びや転がしドッジボールなどのグループ遊びなどをたてわり班で行う。



取組の課題・創意工夫『キーワード 機会の保障と安心感』

・限られた授業時数の中から児童の活動時間を確保することの難しさは感じるが、たてわり班を使った活動を取り入れることにより得られる成果をより効果的にするためには、たてわり班と一緒に活動する機会の保障が不可欠となると考えた。そこで児童会活動を計画する生活部だけではなく、遠足や業前運動を計画する保体部など各校務部で計画する行事に意識的にたてわり班を活用するようにしてきた。その結果、たてわり班の児童が顔を合わせることが多くなり親近感を感じられるようになった。また様々な活動に協力させて取り組ませることで連帯感が生まれた。

・リーダーシップを発揮しやすいように、各行事の前に6年生児童にオリエンテーションを行った。きちんと見通しをもたせることで6年児童も安心感を感じ、自信をもって下学年に接することができるようにさせた。行事が終わるごとに振り返りをさせ、見つけた改善すべき点を次回の活動に生かすことが

できるようにした。

・異年齢、異性で構成するグループで活動することによって多様な考え方にふれさせることができるようにすることをねらって、たてわり班を組む時には、どの班も男女の比をできるだけ均等となるように組むようにした。

取組の成果（効果）『キーワード 学年を越えたつながり』

・1年間を通じて様々な活動を共にやってきたことで、学年を越えて良好な人間関係を築こうとする意識は高まった。特に6年生はリーダーとしての自覚をもち、自分のことだけではなく、グループ全体のことを考えて声かけをしたり、行動したりすることができるようになってきた。また5年生は、来年度、自分たちがリーダーとなった時に、果たすべき役割やグループをまとめる方法を6年生の姿を見ることで学び、明確にイメージすることができた。たてわり班活動を行っていない時でも、校内で出会えば声をかけたり、自ら率先して遊びに誘ったり、困っていたら助けたりということができるようになってきている。自分のことだけではなく、周りに意識を向けることができる児童が増えてきたように感じる。

今後の展開『キーワード 反省と改善』

・今年度取り組んできたたてわり班活動は、高学年のリーダー性の育成や、学年の壁を越えての良好な人間関係づくりの確立というねらいを達成するために非常に有効であったと感じる。今年度の取組の反省を活かしながら来年度もたてわり班活動を仕組んでいきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 計画と見直し』

・行事の精選、またその内容の見直しをしていくことの必要性にせまられている中で、年間を通じてたてわり班を使った活動を行事の中に取り入れていくことの難しさを感じる。またリーダーとしての自信をもって取り組ませるためには、事前にリーダーとしての心構えや活動の流れなどが分かるようにオリエンテーションを行うことが欠かせない。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島小学校	校長氏名	尼子 博崇	生徒指導主事氏名	西本 由美
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ともだちさんかまつり』

取組のねらい『キーワード 関わり合う』

- ・吉島小学校と広島南特別支援学校の児童，また地域の人たちとふれあい仲良くなることで，相手を思いやる心を育てる。
- ・お店の計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- ・集会にみんなで参加し，楽しさを分かち合う。

取組の具体的内容『キーワード 満たされる』

・児童会が主となり計画運営をしていく広島南特別支援学校との交流行事。開会式では，参加者全員が歌う「手話による歌」や2校の低学年が合同で取り組む「おみこし」で会を盛り上げる。その後「まつりの広場」で3年生から6年生は自分の学級のお店を開き，店番で自分の役割を果たしたり，お店を回ったりすることで自己存在感を感じたり，友だちと協力する楽しさを味わったりする。また，自分が開いたお店に参加してくれた人たちが喜び，楽しむ姿を見ることで自己肯定感を味わったり，相手の立場を考える思いやりが育ったりする。当日までの活動を通して自分が必要とされていることを実感し，児童の心が満たされる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 時間』

・まつりの時期には、修学旅行や野外活動等が重なるため、十分な時間をとって準備することができない。また、児童会運営委員会が抱える仕事もたくさんあり、限られた時間の中で準備等を行っていくので、児童会運営委員がゆっくりアイデアを出し合い練り上げる機会が十分持てない。したがって教師主導で行いがちになることがある。

取組の成果（効果）『キーワード 主体性』

・児童が主体的にお店の運営にあたりたり、児童同士が相談・試行錯誤しながらやりたいものへと仕上げていったりする過程で、生き生きとした児童の姿が多く見られた。また、休みがちであった児童がまつりの計画や準備のために継続して登校し続けたり、不登校傾向の児童がまつりをきっかけに登校できたりしたことも大きな成果である。



今後の展開『キーワード 広がり』

・まつりを通して身についた「主体的に考え実行していく力」が他教科や生活の場面に広がっていくことが期待される。特別活動にとどまらず、普段の授業の中でも児童が思考を組み立てられるよう教師が意識して授業を構成していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 信じる』

・児童の力を信じて任せてみるのが1番であると考え。「できないだろう」と最初から決めつけ教師主導で進めていくと、児童は考えることをやめ指示通り動くだけになってしまう。失敗することも想定し、それを修正していくことができる時間を十分与えられるよう計画性を持って、児童を信じ任せてみるのが大切である。

「やっぱり、振り返るべきことは、南特別支援学校の事だと思います。その人たちに、耳が聞こえないので、自分自身はハンドサインを送って説明しました。OK？は丸をつくる首をかしたり、三回落とすよはさしほうを三回下に持ったりしました。じっさい、用意してなかったから、アドリブで店けいはいは何回もやってきましたが、こんな重大なやくはや。たことかないので、みんなうしなから、いい経験の一つです。」

「でも、とてもようこんでくれた人、たのしんでくれた人がいたのです。たてす。」

「いよいよ友達参加祭りが開催されました。最初、ぼくはお客さんが来てくれるか心配になりました。けれど、すぐにお客さんが来てくれました。なのでぼくはお客さんを喜ばせるために、いろいろな、いろいろな、いろいろな声掛けしたり、質問を伝えたりするようにしました。そして、他人との押し方の仕方を学びました。この友達参加祭りで学んだ他人との押し方は、今後役に立つと思います。なので今のよくな時に、それを身につけたいと思います。」

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立温品小学校	校長氏名	上田 盛之	生徒指導主事氏名	中尾 恵美子
-----	-----------	------	-------	----------	--------

取組事例名 『温品なかよしオリエンテーリング』

取組のねらい『キーワード 縦割り活動』

- ・縦割り班で活動を通して、学年や学級の異なる友達や地域の方々、教職員と共に楽しく触れ合って交流を図ることにより、望ましい人間関係を深めるとともに、感謝の気持ちを持つ。
- ・集団の一員として、自分の役割を果たし、協力して解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード リーダーシップ』

(事前)

- ・簡単なゲームをしたり、平和集会で折り鶴を一緒に折ったりするなど縦割り班活動を定期的に行う。
- ・「温品なかよしオリエンテーリング」前には、朝会の時間を使って、縦割り班で集まり、どのような順番で回っていくかや、班の決め事など、6年生が中心となって作戦会議をする。

(当日)

ゲーム…地域の方々がお世話してくださる「ふれあいゲーム」コーナーと、教職員が担当するゲームコーナーを数箇所ずつ設け、縦割り班で相談しながら、6年生のリーダーシップのもと、児童だけで回っていく。



クイズ…学年や先生たちからのクイズを解きながら回っていく。

(事後)

- ・なかよしオリエンテーリングでお世話になった地域の方々に、6年生が感謝の手紙を書く。
- ・運営委員会の児童が、縦割り班ごとの得点を計算し、児童朝会で上位3チームの表彰を行う。

取組の課題・創意工夫『キーワード 創意工夫』

児童会が主催している行事とはいえ、用意されているゲームやクイズに参加すればよいという状態になっており、縦割り班のリーダーである6年生が自主的に考え行動する場面は少ない。自分たちが創意工夫できる程度の自由さをうまく取り入れていきたい。

取組の成果（効果）『キーワード 憧れ』

6年生は、オリエンテーリング中、自分の班の1～5年生の面倒をよくみていた。その姿を下級生たちはよく見ており、振り返りの日記などには、「あんな6年生になりたい」と書く児童も多かった。それを6年生にも返している。他学年も6年生の優しい姿を見て、低学年への接し方が良い方へ変わってきた。



今後の展開『キーワード 継続』

縦割り班でスーパー昼休憩に遊ぶ、卒業する6年生に向けての取組をするといったことを考えている。なかよしオリエンテーリングで終わるのではなく、縦割りのつながりが継続できるようにしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 計画的』

年度初めから一年間の長期的な計画を立て、6年生が自覚して動けるような声かけや取組を計画的に入れていくと、最高学年としての自覚が年間を通じて育っていくと考えられる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立天満小学校	校長氏名	岸保 仁司	生徒指導主事氏名	高垣 恵一
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『たてわり班活動』

取組のねらい

『キーワード』 一人ひとりの居場所づくり～新しい自分探し、見つけ～

異学年交流だからこそ発揮できる個の力を支え、児童の良さを見つける指導

- ・上級生と下級生が交流する中で、力を合わせて一つのものをつくりだすことの楽しさや喜びを味わわせ、同時に異年齢集団で連帯することの大切さを学ばせる。
- ・班長指導を通して、高学年児童にリーダーとしての自覚や力量を身につけさせる。

取組の具体的内容

『キーワード』 ・年齢の違う人たちとかかわることで自分のよさを見つける

・楽しいことを一緒に作ることで友達の良さを見つける

・一つ一つをていねいに取り組むことで達成感を味わう

4月に新年度のたてわり班を結成する。その際には、児童の特性などを考えながら、全職員で話し合い決定する。そして、異学年集団を活用した活動を年間を通じて行っていく。主なたてわり活動としては、春の歓迎遠足、たてわり班運動、夏季運動会、たてわり班仲間作り、新体力テスト、あいさつ運動、おりづる集会、なわとび検定、プラタナス集会こどもの日、たてわり班感謝会などを企画していく。

各たてわり班で活動する際、事前に5・6年生だけが集まってリーダー会議を行い、一つ一つの活動をどのようなものにしていきたいか、目標を設定する。また、一人ひとりにとって充実した活動となるように役割分担を考えたり、計画表を作成したりする。そうした活動を通して児童一人ひとりが自分のめあてをもって主体的に活動ができるようにしている。卒業式前にたてわり班感謝祭を行い、一年間、先頭に立って各班を引っばってきた6年生に対して、5年生を中心に感謝の気持ちを示す。その会を通して、5年生は、次年度のリーダーとしての自覚を持つようにする。

取組の課題・創意工夫

『キーワード』 年間を見据えた指導

それぞれの取組の前後には、①目的②めあて③ふりかえりの時間を設け、やりっぱなしの活動にならないようにする。全校共通のふりかえりカードをもとに、活動のめあて「自分のよさを見つけた」「協力して活動した」の評価と、自分の感想などを書くようにしている。活動に参加する前にめあてを考え、活動が終わってからふりかえる事前と事後の時間を必ず設けるようにしている。そのふりかえりをもとに、次の取組や学級での生活に繋げるなど、行事ありきではなく、各行事をきっかけとして、年間を通して継続的に児童を育てていく。

課題としては、リーダー学年の中に、指示待ちの姿勢が多く見られ、主体的に活動できていない児童がみうけられるため、今後も継続して主体的に行動することができるリーダーを育成していく必要がある。

取組の成果（効果）

『キーワード』 学校全体で全校児童を見守る

ふりかえりカードの記述から、「自分のよさを見つけた」や「友達のいいところを見つけた」など、肯定的に自分や他の児童の行動をふりかえている様子が見えてきた。また、異年齢集団で年間を通して様々なことに取り組んできた結果、相手の気持ちを考えて行動しようとする姿がみられた。また、日々の生活面では、他の児童を自然と助ける姿が見られるようになってきた。そうする中で、上学年への憧れや「自分たちもやりたい」という思いを抱くことができるようになってきた。クラスの中ではあまり自分の思いを出しにくい児童も、異学年集団の中では自分の役割と活躍の場があり、活動を通して自己肯定感を高められるようになってきている。

また、活動中の児童の様子を教職員間で共有することで、学校全体で児童を見守り、一人ひとりの成長が促進されるような雰囲気をつくれるようにする。

今後の展開

『キーワード』 つけた力を今後につなげる

12月の、「プラタナス集会子どもの日」でのたてわり班活動を通して、身に付けた力（企画すること、やり切ること、友達と協力すること、みんなが楽しめるようにすること）を自分たちのクラスの中で生かしていこうという思いを大事にし、自分たちに何ができるかを考え、学級活動に取り入れていく。

児童が主体となってクラスの行事を計画したり、運営したりすることで、自分たちでやり切る力をさらに伸ばしていくようにする。

他校へのアドバイス

『キーワード』 見通し・つながり

これまで述べたように一つの行事、一つの活動ではなく、あらゆるものを関連付けて、年間を通して児童を育てていくという長期的な視点をもつことを大事にしたい。授業だけでなく、様々な場面でめあてをもって取り組み、ふりかえりながら次の活動につなげていくようにする。そのためには、教師自身が児童にどんな力をつけたいのか、何のためにその取組を行うのかという意図や目的をしっかりとっておかなければいけない。一年間の中で、いつどんなことを行うのか、どんな行事があるのかをしっかりと持ち、見通しをもって取り組む必要がある。そうすることで、いろいろなことを関連付け、その経験を次に生かそうと考える児童や、自分なりのめあてをもって主体的に行動する児童が育っていくと思う。子ども達は必ず変化し、成長していく存在としてとらえ、その過程を評価していきたい。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀崎小学校	校長氏名	和田 麻里子	生徒指導主事氏名	石田 葉子
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『かめっこデー』

取組のねらい『キーワード … 誰とでも なかよく 』

1 学年 1 クラスの小規模校で、児童はクラス替えもなく、よく知っている決まった人間関係の中で生活している。普段と違う環境になると必要以上に構える児童も少なくない。縦割りの活動を仕組むことで、児童は人間関係を広げ、誰とでも楽しめるような良質なコミュニケーション活動が体験できる場になることをねらっている。『かめっこデー』では、毎回児童に以下のことを伝えるようにした。

○ほかの学年の友達ともなかよく活動しよう。

○みんなで楽しむために、(学年に応じた) 自分の役割を考えて行動しよう。

取組の具体的内容『キーワード … なかよく 協力』

○縦割りチーム (7～8名) を編成し、一年間を見通して、活動を計画する。

1. 5月 児童朝会…顔合わせ。
2. 5月 『なかよく 協力 スタンプラリー1』
3. 6月 『おりづるの会』
4. 7月 『防犯教室…きまりを守って安全に暮らそう』
5. 10月 『なかよく 協力 スタンプラリー2』
6. 1月 『なかよく 遊ぼう 』
7. 3月 6年生を送る会…お礼の手紙を送ろう

* 6年生のお兄ちゃんがおんぶしてくれました。まほうのじゅうたんに、みんながのれてよかったです。(2年男子)



『なかよく 協力 スタンプラリー1』



* 万引きは絶対にいけないということを話し合いました。ぼくは、記録で6年生をサポートしました。みんなが意見を言ってくれたのでよかったです。(5年男子)

7月 『防犯教室』

* 6年生のお姉ちゃんが折り鶴の折り方をやさしく教えてくれました。ぼくは折り鶴を2羽折ることができました。(1年男子)



6月 『おりづるの会』

* 今日の『スタンプラリー2』は初めてで、わたしも楽しかったです。低学年の人も楽しかったと言ったのでほっとしました(6年女子)



10月 『なかよく 協力 スタンプラリー2』

* 男の子が泣きました。後で、あの時、何て言ったらよかったのかなあと考えました。(6年男子)

取組の課題・創意工夫『キーワード… みんなでたのしむために 』

○「みんなでやると楽しかった」と感じる活動をまず仕組んだ。「スタンプラリーⅠ」は数年行っている児童会行事で、どの学年の児童も活躍できるクイズ問題やゲームを仕組むと同時に、事前指導では、6年生がリーダーシップを発揮して、グループがなかよく活動できるように、それぞれの学年に応じた役割や行動を考えさせている。

○「簡単に準備できる、単純なルール」を意識して、児童も教員も気軽に「かめっこデー」に参加できることを意識して計画する。

〈課題〉教員の目が届ききらないこと。→まだ、児童だけでは対応が難しい場面もあり、その支援が十分にでききらず、目が届かないところで児童間のトラブルが起きた時、対応が遅れることがある。6年生がリーダーシップを発揮できるようなフォローができないことがある。

取組の成果（効果）『キーワード… しっとり感 自分のやくわり』

○6年生のリードを聞いて、順番を待ったりゆずったりしながら、しっとりと穏やかな雰囲気の中で活動できるグループが増えている。グループ内での役割を考えた行動（5年…リーダーのサポート。中学年…自分のことは自分で、低学年をリード。1・2年…わがままを言わない。など）がとれる雰囲気ができてきた。

○顔見知りの友達が増えている。

○児童の振り返りから、下学年の児童が、上学年の児童を慕う表現が増えてきた。特に6年生がリードする姿は、下学年の児童にプラスの影響を与え、それを6年生に伝えることで、6年生の自信につながっている。（5年…来年は自分たちだ 1・2年…やさしかった、話をきいてくれた）

今後の展開『キーワード…日常生活へ』

○遊びの自立 または ○活動の広がり（清掃活動、安全マップ作りなど）・・・今年度の活動を振り返って、次年度は、本校の縦割り活動をどちらの方向に進めるか、検討しているところである。

○日常生活の中でも、「顔見知りのお兄ちゃんとあいさつした 声をかけてもらった 遊んだ」など、ちょっとしたコミュニケーションが気軽にできる関係になる姿を目指したい。

他校へのアドバイス『キーワード 関係をつなぐ』

・年間を見通して活動を計画し、必ず教員がグループについて、支援する。

→児童に「楽しかった」の貯金を。

・「準備は簡単、ルールは単純」→縦割りで、「一緒に活動しながら、関係をつなぐ」という気持ちで、簡単なことを積み重ねる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組例」

学校名	広島市立三入小学校	校長氏名	西岡 恵美子	生徒指導主事氏名	池永 亮二
取組事例名 『みんなでファイト2015』					
取組のねらい『心をつに 思い出作り』					
○1年生から6年生まで新しい友達をつくって仲良くなるろう。 ○クイズに挑戦し、みんなで楽しい時間を過ごそう。					
取組の具体的内容『みんな仲良し 縦割り班活動』					
○内容：校内にクイズやゲームの場所を設定し、縦割りグループで回る。 ○グループ作り：1年生から6年生まで10人程度のグループを作る。 ○集会に向けての実施計画					
1次 教室で顔合わせをし、自己紹介。次回の長縄練習計画をし、簡単なゲームをする。(1時間)					
<ul style="list-style-type: none"> ・6年生は1年生を迎えに行く。 ・リーダー、副リーダーを決める。グループ遊びの時は、副リーダーは1年生を迎えに行くこと、リーダーは先に集合場所で待つことを確認。リーダーは持ってきたバインダーに解答用紙をはさんでおく。リーダーは、うちわとバインダーを持って帰る。5分前に終了し、教室へ戻る。6年生は1年生を送る。 					
2次 長縄跳び練習タイム（グループ遊び）：拡大昼休憩を使って（約30分）					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動場に全員集合する。 ・リーダーはうちわを持って並ぶ。副リーダーは1年生を迎えに行く。 					
3次 長縄跳び記録会（グループ遊び）					
4次 児童集会（2時間）					
〔先生の役割分担〕					
<ul style="list-style-type: none"> ・フロア担当はきちんと班で行動している班へ得点を与える。 ・各クラスは教室前に、担任外は所定の位置に3択クイズを考えて掲示する。 ・クイズの回答欄やゲームの内容と場所を書いたワークシートを使って全館を回る。 					
〔運営委員会が考えたゲーム〕					
<ul style="list-style-type: none"> ・チョークしりとり・ジェスチャー・キャラあて・運だめし ・ストラックアウト・パズル・オセロ 					
〔児童の感想〕					
<ul style="list-style-type: none"> ・お兄ちゃんやお姉ちゃん達とゲームができて楽しかった。 ・困っている時、やさしく声をかけてくれてうれしかった。 ・みんなが暴れたり文句をいったりしてとても大変だった。でも、みんなが喜んでくれてやりがいがあった。 ・みんながしっかり楽しめる内容のゲームを考えたので、よかった。 ・集会は大成功だと思った。準備を手伝ってくれたり真剣に説明を聞いてくれたりしてやりやすかった。 					
5次 児童朝会で高得点のグループを表彰する。					
6次 グループ遊び「長縄跳び」：12月2回、1月1回の計3回					

取組の課題・創意工夫『みんなが楽しめ、たくさん回れるように』

- 限られた時間内でたくさん回れるように運営委員会は、短時間に班の全員が協力して楽しめる内容のゲームを考えた。
- 活動中はBGMを流し、楽しい雰囲気にするようにした。
- 同じ場所にグループが集まらないように、スタート場所を指定した。
- 空いている場所を校内放送で伝えた。
- グループで持ち歩く解答用紙（得点用紙）には、班の活動を振り返り、書く箇所を設けた。
 - ① 仲良くできましたか。②こまったとがあったら書いてください。③楽しかったゲームを書いてください。

取組の成果（効果）『笑顔の花が咲いた』

- 年に一度の児童会行事。長年やっているだけに楽しみにしている児童も多い。本校での異学年交流は、登校班、児童集会、生活科（1年と2年）、1年生の給食配膳や掃除の手伝い、歓迎遠足（1年と6年）、運動会での表現運動（3年と4年、5年と6年）等である。
- いろいろな人と繋がる喜びを味わう体験活動となっている。友達と分かり合える楽しさが実感できる体験活動と相互交流の工夫を行うことで、コミュニケーション力を育むことができる。

今後の展開『異学年交流で自尊感情を育む』

- 地域の子ども会がなくなってきている現状からこの異学年交流は継続していきたい。
- 異学年交流をする中で高学年は、リーダーシップを発揮しながら自分への気づきが増え、自分のよい所を伸ばすことができる。
- 多様な人との関わりを通して、自分が周りの人に役に立っていることや周りの人の存在の大きさに気づくようになる。高学年として自尊感情を育むことができる貴重な場であると考えている。

他校へのアドバイス『時間をかけずに仲間づくり』

- クラスや学校に関するクイズを解いて回るクイズラリーが主体であるので準備に時間がかからず、クラスや学校のことを学べるよさがある。
- 運営委員会がゲーム担当をするので、指導がいきとどきやすい。
- 児童集会での縦割り班を活用して冬場の長縄跳び遊びができる。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市中央小学校	校長氏名	山本 敏之	生徒指導主事氏名	高橋 直美
-----	--------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『校内ウォークラリー』

取組のねらい 『みんなでつながる』

- ・ 進んであいさつができるようにする。
- ・ 縦割りグループ（1年生から6年生）のつながりを生かしながら、思いやりの心や規範意識を育成する。
- ・ 集団の一員としてより良い学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。

取組の具体的内容 『みんなで楽しむ』

- 事前学習** 4月に縦割りグループを決め、縦割り遊びや縦割り草抜きなどの活動をする。（年間12回）
- ・ 企画委員がゲーム内容をVTRで紹介する。児童はゲーム内容を把握する。
 - ・ 中央タイムの時間に6年生はリーダーとしてウォークラリーのねらいや流れを把握し、役割やゲームの挑戦者を決めるなどグループで活動する計画を立てる。
 - ・ 児童朝会でグループごとに、決まりを守って安全に歩く練習をする。

ウォークラリー当日

- ・ 体育館に全校が縦割りグループで集合し、校長先生の話や企画委員の説明を聞く。
- ・ 校内の12のゲームポイントと6つのクイズポイントを縦割りグループで回る。
- ・ 移動のルールを守り、ポイントを回る。
- ・ ポイントでは先生にあいさつ（大きな声・語先後礼）をして、決められたルールを守り、協力してゲームやクイズに挑戦する。
- ・ すべてのポイントを回ったグループは運動場で、グループごとに計画していた遊びをして待つ。
- ・ 時間になったら、ゲームを終了し、教室に戻る。



開会式



グループの移動



ボール運びのゲーム



ゲームコーナーの看板



輪になって手をつなぎ校歌を歌う



ポイントのクイズ（5年生問題）を解く



お手玉いれゲームをグループで楽しむ



探検シートを確認する

事後指導

- ・ 企画委員が集計をし、給食放送で結果を伝え、グループを表彰する。
- ・ 振り返りをする。

児童の感想より

○みんなであいさつとお礼が言えた。 ○みんなでボウリングのピンを直した。 ○低学年が言うことを聞いてくれた。 ○5年生があいさつをしようと声をかけてくれた。 ○6年生は1年生から5年生まで世話をするんだ。 ○6年生になったらみんなのお世話が出来るかな。 ○疲れてしまっても6年生が優しく連れて行ってくれた。 ○みんなでなかよくゲームや歩くことができてよかった。 みんなでやると楽しいな。 ○6年生がゲームで答えるのがかっこよかった。

取組の課題・創意工夫『みんなが活動できる』

- 創意工夫・ 1年～6年までの児童が活躍できるゲーム（簡単～難しい）を取り入れる。
- ・ クイズは学年の先生が学年ならではのクイズを作る。（学年の児童が活躍できる）
- 課題・ 待ち時間が多くなってしまったので、ゲームやクイズを工夫する必要がある。
- ・ 1・2時間目に行ったが、遅刻児童の途中からの参加が難しかった。2・3時間目にすると途中からの参加がしやすい。
 - ・ 児童の主体性がはぐくまれる場面と時間の設定を工夫する。

取組の成果（効果）『かわりが増える』

- ・ グループでのつながりが深まった。
- ・ 6年生はリーダーとして思いやりの心を持ち、責任をもって役割を果たすことができた。
- ・ みんなであいさつとお礼が言えた。
- ・ お互いに声をかけルールを守ろうとしていた。
- ・ グループ内でゲームを応援したり、アドバイスしたり、みんなで喜んだり、一生懸命な姿が見られた。

今後の展開『引き継ぐ』

- ・ 縦割り集会でグループ遊びをする。
- ・ 縦割りグループの6年生にお礼の手紙を書いて、お別れ集会で渡す。
- ・ 5年生にリーダーを引き継ぎ、5年生リーダーによる縦割りグループ遊びをする。

他校へのアドバイス『縦割り活動』

- ・ 地域の中での縦のつながりが薄くなってきている本校では、高学年は、思いやりの心と責任感を育てること、低学年は高学年を慕い、高学年の姿から学ぶことを目標とし、縦割りでの活動に取り組んできています。昨年までは、校外ウォークラリーで「子ども110番の家」を確かめながら、ポイントでのクイズやゲームに挑戦するという設定でした。目標が達成できたこと、少しマンネリ化してきたこと、6年の負担が大きいということなどから、今年は校内でのウォークラリーに変えて、試行錯誤しながら取り組んでいるところです。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市小学校	校長氏名	高田 伸	生徒指導主事氏名	高尾 徹
-----	------------	------	------	----------	------

取組事例名 『児童集会～ウォークラリー～』

取組のねらい『異学年交流』

- ・ 縦割り班活動を通して、異学年の交流を深め、楽しく活動できるようにする。
- ・ グループで協力して問題を解決することで、よりよい人間関係を形成する。

取組の具体的内容『全員参加』

- ・ 代表委員会で、計画委員から提案される内容を踏まえ、各クラスで問題づくりを行い、後日画用紙に書いた問題を集め問題の重複がないか計画委員会で調整する。
(例) イントロ当てクイズ、ブラックボックス、○×クイズ、まちがいはどこだ、豆つまみ、ペットボトルボーリング、みんなでそろってレッツゴー、シルエットクイズ、連続勝利ジャンケン
- ・ 1分程度の間全員参加できる活動内容にする。
- ・ 60グループで25か所のポイントを回り、クイズに答えたり、指示を聞いたりする。合格したらポイントにいる先生にカードへ判を押してもらい、決められた言葉を書いてもらう。25文字にどんな意味が隠されているかグループで協力して考える。
- ・ 各グループのスタートのポイントをあらかじめ決めておき、混乱を避ける。
- ・ 縦割りグループ内の学年の問題の時は、その学年がカードを渡し、言葉を書いてもらい、参加感を味わわせる。
- ・ 自分たちのクラスには、必ず立ち寄るようにする。
- ・ グループ全員で行動するルールが守られているか、問題を出す前にそろっているか各教室で確認する。
- ・ 6年生は1年生と手をつなぐ。
- ・ 室内歩行のマナーを守る。
- ・ 待っている間に教室をのぞいて問題を見たり、他のグループに答えを教えたりしない。
- ・ グループからはぐれたら「出会いの広場」で落ち合う。
- ・ グループ全員がそろっているかリーダーは確認しながら移動するようにする。
- ・ グループから離れるような勝手な行動をしない。

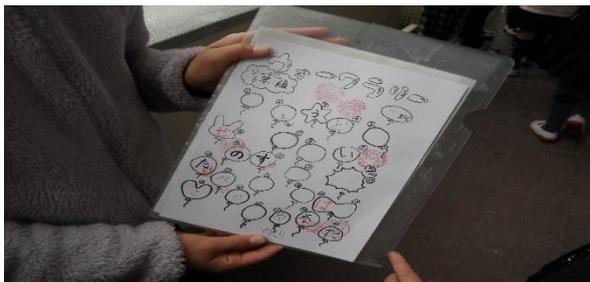


取組の課題・創意工夫『リーダーシップ、フォロアーシップの育成』

- ・ たてわり朝会、たてわり集会を年間活動計画に位置づけ、児童に見通しを持たせるとともに、児童相互の関わりやつながりを生かした児童活動として支援する。
- ・ 児童朝会や児童集会などで、1年生から6年生までの児童がいっしょに遊んだり、活動したりすることにより、思いやりの心や態度を育てる。
- ・ 6年生は、下学年の世話をしたり、リーダーとしての役割を果たしたりすることを通して最高学年としての自覚を持たせる。
- ・ 60グループに担当教員を決め、朝会、集会ごとの6年生の企画の相談・評価を行う。
- ・ 縦割りグループ活動により、「誰の」「何を」育てるために「どのように」支援をしていくのか、ねらいを明確に持ち、振り返り、評価に生かしていくようにする必要がある。

取組の成果（効果）『リーダーシップの育み』

- ・ 「できたことは、縦割り班で計画したことをスムーズに進めることができたことです。ポイントの半分くらいしか回れませんでした。1年生の手を引いてあわてず歩きました。グループで協力してポイントをクリアし、みんなが笑顔で楽しく過ごすことができました。」＜6年生児童の感想＞
- ・ 1グループ15名程度の中に2名のリーダーが活動している。これまで5～6回のたてわり朝会を重ねてきた。下学年の世話をすることを通して、下学年から慕われ、頼りにされることでリーダーシップが着実に育っていくように思われる。



今後の展開『卒業おめでとう集会にむけて』

- ・ 1月のたてわり朝会では、3回目の自由遊びに向けたグループ活動を行う。
- ・ 2月末、「卒業おめでとう集会」では、9月末に続き、1～5年生が6年生にむけてお礼の手紙を書くことにしている。年間を通して活動してきたリーダーに対して、下学年が感謝の気持ちを手紙に託す。
6年生は下学年からの手紙を受け取り、これまでの振り返りを行い、最高学年としての自覚をさらに高めていく。

他校へのアドバイス『主目的は何か』

- ・ 他者から認められ、他者の役に立っているという児童の「自己有用感」を育みたいとの思いで異年齢交流を行っている。5年生と近隣幼稚園・保育園の年長組、1、2年生と年長組との交流等、校内のみならず幼・保・小連携推進計画にも位置づけて取組を行ってきた。「何をした（させた）のか」のみならず「何を」育てるために取組を行ったか。交流のみが主目的になってはいないか常に振り返りを行う必要がある。
- ・ 縦割りグループ編成の際に、配慮を要する児童については職員間で情報を共有し、担当教員、リーダーを決める際の参考にするようにする。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立竹屋小学校	校長氏名	尾形 慎治	生徒指導主事氏名	里本 孝文
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『竹屋っ子グループ』を用いた集会活動

取組のねらい 『異年齢グループ活動』（異学年交流）

児童が自分たちの学校生活をより良く、そして楽しく向上させようとする意図のもとに、自主性と社会性を養うために、児童相互の関わりの場として、異年齢グループを積極的に活用する。

取組の具体的内容 『年間を通して』

＜竹屋っ子グループ＞（縦割りグループ）

- ・全児童を人数や男女比が等しくなるように24のグループに分ける。
- ・年間を通して様々な場面で活用する。

6月・・・折り鶴集会

7月・・・夏の集会

9月・・・クリーン活動

12月・・・冬の集会

随時・・・体育的集会



＜異学年交流＞

- ・1・2年の校内探検，おもちゃ祭り
- ・2・3年，4・5年，5・6年の学習紹介引き継ぎ
- ・すずかけ交流会（1・2年，3・4年，5・6年）
※「すずかけ」とは毎年作成する全校文集のこと
- ・運動会や遠足



取組の課題・創意工夫『グループ作り』

- ・年度当初のグループ作りに手間がかかる。
(児童の実態把握, グループの均等性, 要配慮児童の所属グループ) 等
- ・グループ数に対して担当者(職員)の不足。

取組の成果(効果)『思いやり』

- ・全校児童が顔見知りになった。
- ・上の学年にとっては, 自尊感情が揺さぶられ, 自主性やリーダー性が育った。
- ・下の学年にとっては, 上の学年に憧れ, 今後の見通しや, 学習意欲の向上につながった。
- ・互いを意識し, 尊重し, 思いやる気持ちが養われた。

今後の展開『継続と見直し』

- ・活動が定着していくために, 職員が意識統一して継続していくことが大切。
- ・マナー化を防ぐために活動内容や場面について見直すことも必要だと思う。

他校へのアドバイス『異学年交流』

・異学年での活動は, 上学年児童にとっても下学年児童にとっても効果が大きい活動である。
また, 学校の伝統や風土を引き継いでいくことにおいても, 大きな役割を果たしている。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立宇品小学校	校長氏名	森川 康男	生徒指導主事氏名	原 幸子
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『宇品っ子集会』

取組のねらい

- ・ 上学年と下学年がペアでグループになり、交流を深め、よりよい人間関係を形成する。
- ・ 集団の一員として自分の役割を果たし、協力してよりよい学校づくりに取り組む自主的・実践的な態度を育成する。

取組の具体的内容 『自主・実践』

- 日時 平成27年11月18日（水） 宇品タイムと第5・6校時
- 場所 各教室及び体育館
- 内容
 - (1) 学年で統一したテーマのものを準備する。
 - (2) 学年が同じ内容にならないように、学年間で相談しておく。
 - (3) 教育活動に合った創造的なものを考える。
 - (4) 事前準備で、学習内容に合うものは、国語、生活、総合、図画工作科などの、シラバスにある時数でカウントをする。

学年	テーマ	具体例(内容)【当日までの時数例】
1・2年生	「おもちゃであそぼう」	やまのぼりかめさん、ぶんぶんゴマ、ほか手持ちおもちゃを作って紹介する。【時数：生活科、図画工作科、国語科、学級活動など】
3・4年生	「チャレンジランキングゲーム」	空き缶積み、傘バランス、漢字パズル、ほか、タイムを計って競うゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動、国語科など】
5・6年生	「スポーツゲーム」	ストラックアウト、ボーリングなど、体を使って取り組めるゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動、図画工作科など】
わかば学級	学級児童の実態に応じて	担任で相談する

- (5) 混雑しないように、1グループ(6・7人)が一斉に楽しめて、5分以内で次の学級へ行けるように内容を考慮する。
- (6) 教室ごとの準備・片付け・運営は、学級児童ですばやくできるように役割分担を細かく考えておく。
- (7) 開始の放送までに学級でお店の準備しておく。
- (8) ごみを出さないことを前提とし、リサイクルできるものを利用するなど、材料を集める。学校で処分できるものは各教室ダンボール2個までとし、持ってきた材料や作成したものは、各自持ち帰る。
- (9) 学級でスタンプを用意しておき、スタンプ係も決めておく。
- 4 役割分担
 - (1) 全体の司会進行は、児童運営委員会が行う。
 - (2) 各学級のお店は、どの学年の人も楽しめる内容で、学年で話し合った上、学年の実態に応じたものを決定する。担任がお店の内容を児童運営委員会へ知らせる。(10月23日(金)まで)
 - (3) 学級担任は学級内と担当場所(付近の廊下階段)の安全指導を行う。
- 5 進め方
 - (1) 開会式を自分の教室で行う。
 - (2) 開会式終了後、スタート放送で移動を開始する。
 - (3) 各教室でスタンプをもらって、地図を見ながら次の教室に進む。
 - (4) 放送を聞いて、前半・後半でお店の当番の人と回る人を替える。
 - (5) 放送は児童運営委員会児童が行う。
- 6 ルール
 - (1) グループで行動する。
 - (2) 他のグループと合体したり混じったりしない。
 - (3) 校舎内では右側を歩き、走らない。体育館周りは一方通行にする。
 - (4) 移動は、順路を守り逆走しない。
 - (5) 放送をよく聞いて行動する。
 - (6) 前半45分後半45分とし、前半後半の間5分で交代をする。(放送の合図で開始、終了)
 - (7) 終了10分前に学級の受付を終了する。
 - (8) 準備・片付けは児童全員で協力して行う。

(9) 出入り口は全学年で揃えて、混乱を少なくする。

7 「字品っ子集会」当日の教員の役割

(1) 教室移動のタイミング、前後半の移動の呼びかけをする。

(2) 各学級担任は、定刻に終了できるように、10分前には受付を終了することを指導する。

(3) 教室内や付近廊下の児童管理・安全指導をする。

(4) 放送・進行は、児童運営委員会担当職員が指導する。

(5) 担任外教員は、体育館周りや北校舎西出入り口周りを巡視する。

(6) 各学級担任は、5分以内で次の学級へ行けるように指導する。(渋滞すると全て回れないグループ出る。)



取組の課題・創意工夫 『ピア・サポート的交流活動』

【仲よく交流できるように】

事前指導

(1) グループ作り

○遠足のペアを活用してグループを作る。

①ペア学年で仲よく回ることができるようにメンバーを確認しておく。

※わかば学級は個別の支援に応じて交流学級に入る。

②各学級の児童を、前半に回るグループと後半に回るグループの2つに分けておく。(上学年)

③2つか3つのペアと一緒に回るメンバー(6・7人)を決め、メンバー表を作成する。

④4・5・6年生の一緒に回るグループ毎に、事前打ち合わせ会までに班長と副班長を決めておく。

(2) 事前打ち合わせ

○ペア学年毎に担任間で相談して10 / 17(月)～11 / 4(金)の間で、期日を決めて行う。

①グループの自己紹介をする。

②スタンプカードにメンバー全員の名前を書く。

③行くコースを確認する。(混雑を考慮し、同じ学級数字の教室を回るようにする。児童運営委員が順路を指定する。「例 6-1→1-1→3-1→4-1→2-1→5-1の順番で行く」など)

事後指導

○集会後もグループ同士で仲よく交流できるように指導する。

取組の成果(効果) 『よりよいつながり』

・他の児童とコミュニケーションを取ることが苦手な児童が、興味・関心のある活動を実践することによって、学級の中での存在感や連帯感を持つことができた。

・上級生が下級生を思いやる気持ちを持つことができた。

今後の展開 『人間関係づくり』

・「子どもの人間関係づくり推進プログラム」について教職員が連携し、計画的な取組の推進を図る。

・共同学習の取り入れ方や方法を学年で研修し、実践内容を深める。

・行事取組の場面においてグループコミュニケーション活動を実施する。

他校へのアドバイス 『全校的指針』

・ピア・サポートを活性化するためには、協力の価値を一人一人が認めて実践するといった全校的指針を持ち、相互性・信頼性に基づく人間関係を築くことが大切である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立井口台小学校	校長氏名	中島 孝子	生徒指導主事氏名	梶川 恵理
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ふれあい広場』

取組のねらい『キーワード 児童・教員・保護者・地域の連携』

- 生活科・総合的な学習の時間を中心とした学習の成果を発表する。
- 企画に参加することにより、児童、教員、保護者、地域の方々がお互いにふれあえる時間を設ける。

取組の具体的内容『キーワード 学習発表』

○ねらいに即した学習活動の工夫

①行事の企画・運営について

- 1 学年…生活科の学習で作った作品や体験をまとめた掲示物を展示する。
- 2 学年…図画工作科で作ったおもちゃを展示し、「おもちゃランド」として発表した。
- 3 学年…理科「風の力」「昆虫調べ」をゲーム形式で発表
- 4 学年…地域の伝統や町の成り立ちについて、総合的な学習の時間で調べたことを発表する。
- 5 学年…野外活動の内容をクイズ形式やオリエンテーリング形式で企画し、他学年児童の参加型発表の場とする。
- 6 学年…ひろしま型カリキュラム「英語」を体験できる場を設定し、他学年に理解してもらう。

②他学年の企画への参加について

全学年とも他学年の企画を見学したり、参加したりすることにより、井口台小学校の学習内容や伝統について理解すると共に、次年度以降のふれあい広場の企画を計画することを学ぶ。



← 3年生

『いけいけドンドン風の力』

取組の課題・創意工夫『キーワード 交流』

- 企画・製作・運営を子どもたちが中心となっていく。
- 運営に関しては、大別して前半と後半（担当でない場合は他の学年企画への参加）に分かれて担当を決め実施する。

取組の成果（効果）『キーワード 交流・主体性』

- 子どもたちが仲間と目を輝かせて取り組み、感動を生む行事の創造
 - ①企画・製作・運営を子どもたちが中心となっていくことで主体的な行動が生まれ、創意工夫する力も育まれた。
 - ②運営に関しては、大別して前半と後半（担当でない場合は他の学年企画への参加）に分かれ、担当を決め実施することで責任感と協調性が生まれた。
 - ③同じ目標に向かって取り組むことで連帯感を身に付けることができた。
 - ④保護者や地域の方に発表することで、緊張感と達成感を味わうことができた。



← 6年生

『世界一受けたい6年の授業』

今後の展開『キーワード 学級自治の力』

- 児童自身が学級生活の主人公となる。
子どもたちは、ふれあい広場での計画・準備・実施の学習を通して自分達で考え行動する力を身に付けている。そこで、この学習で培った力をその後の学級での生活に生かし、子どもたちの自治の力を育てていく。

他校へのアドバイス『キーワード 主体性・交流』

- 子どもたちに企画・製作・運営を子どもたちが中心となっていくことで主体的な行動が生まれ、創意工夫する力も育まれるので、非常に良い学習活動になると考えられる。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立梅林小学校	校長氏名	中西 浩二	生徒指導主事氏名	通地 正博
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『梅林祭』

取組のねらい『楽しい学校生活を送ろう』

- ・2年生から6年生までは、梅林祭の取組を通して、クラスが協力し、一つのことを成しとげることによって、新しいクラスの結びつきを深め、学校生活の楽しさを味わう。
- ・1年生は、お客さんになっているいろいろなクラスを回る活動を通して、小学校生活の楽しさを味わい、新しい友達と仲良くなる。
- ・たてわり班でお店を回ることで、異学年交流を図る。

取組の具体的内容『みんなで活動し、楽しもう』

1. 日時 6月19日（金） 1～3校時
2. 場所 開閉会式 体育館 活動 各クラス
3. 内容
 - ・たてわり班で回る（1グループ 5～7人）
 - ・2年生～6年生・・・お店を出す *店番・お客さんを前後半で交代
 - ・1年生・・・お客さんとして、各クラスを回る
 - ・たんぼぼ学級・・・交流学級で店番に参加 お客さんとして回る



取組の課題・創意工夫『みんなで力を合わせ、仲良くなろう』

課題

- ・まわる班（5～6人）を作る時に、縦割り班（11～12人）を各学年の人数及び男女比率が均等になるように、二班に分けることが難しかった。回る班の人数が多く、たくさんの店が回れなかった。

工夫

- ・各クラス、自分達で話し合っ何の店を出すのかを決めた。また、店の名前書きからポスター作り、店の準備、当日の店番などをクラス全員で、分担して行うように工夫した。
- ・1年生は、いろいろなクラスの店を回ることで、楽しい経験を味わい、友達との出会いの場を広げられるようにした。
- ・1年生～6年生までが含まれた縦割り班でお店を回ることで、異学年交流を充実させた。

取組の成果（効果）『みんなで楽しく』

児童の感想より

- ・みんなといっしょに必死で考えて完成した出し物は、当日、たくさんのお客さんが来てくれて、うれしかったし、楽しかった。
 - ・みんなで声をかけあい、協力し合っ、店番をすることができた。失敗しても、助け合っできたので、うれしかった。
 - ・みんなで、一致団結してがんばった。
 - ・縦割り班で、あまり話したことのない人たちといっばい話せて、仲良くなった。
 - ・いつも仲良くしている人とはなく、縦割り班でまわるのは、違う楽しみがあっよかった。
 - ・縦割り班の班長が、下の学年の行きたい所を優先して連れて行ってってくれて、楽しかった。
 - ・初めてたくさんのお店をまわることができ、楽しかった。まわる時もお兄ちゃん、お姉ちゃんがやさしくしてくれたので、うれしかった。
 - ・6年生として、責任を果たせたことに満足した。
- 以上のように「楽しかった」、「うれしかった」、「協力」、「責任」ということばを多くの児童が使っっており、ねらいを達成できたように思われる。

今後の展開『継続した取り組み』

- ・「梅林祭」だけではなく、休憩時間を利用してのクラス対抗の綱引き大会や長縄跳び大会があるので、当日だけではなく、練習からクラス全員で取り組んでいき、クラスの一体感を味わわせる活動をさせていく。
- ・登校班で登校する時や、児童朝会での縦割り班で活動する場面で、他の学年の児童に対して、思いやりのあることば使いをするように指導していく。

他校へのアドバイス『継続させていく』

- ・縦割り班をつくり、児童に班を覚えさせるのは、大変であるが、異学年交流を仕組み、継続することによって、下の学年に対しての思いやりの心は育っくと思われる。
- ・クラスの結びつきを深める活動を、単発ではなく計画的に取り入れていくと、子ども達が目的意識をもちながら活動していくことができる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立仁方小学校	校長氏名	西田 洋子	生徒指導主事氏名	玉田 文男
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『縦割り班顔合わせ会』

取組のねらい『キーワード：リーダー育成』

- ア 「縦割り班顔合わせ会」を実施し、1年間の縦割り班のスタートをスムーズにすることで、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- イ 「縦割り班顔合わせ会」の中で、防災の歌を歌ったり、防災カルタをしたりすることで、学級活動の内容である「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」と関連を図りながら、防災意識を高める。

取組の具体的内容『キーワード：リーダーとの顔合わせ』

- 1 日時 日曜参観日の学級懇談会の時間
- 2 指導者 学級担任以外の職員が指導（担任は学級懇談会に参加）
- 3 進行 児童委員会
※6年生がリーダーとなるスタートの活動となるので、職員が巡回して助言した。
- 4 内容
 - ①始めの言葉
 - ②1年生お迎えの言葉
 - ③1年生のお迎え（1年生を縦割り班に招き入れる）
 - ④自己紹介
 - ⑤防災の歌（3年前に「夢配達人プロジェクト」において、仁方の地名が入った防災カルタを作りたい、歌も作り広めたいと言う願いが当選し、作成したもの）
 - ⑥防災カルタ
 - ⑦中学校校歌（小中合同運動会で中学校校歌も斉唱するため）
 - ⑧先生のお話
 - ⑨終わりの言葉



④自己紹介
リーダーから、学年と名前を発表していく。



⑥防災カルタ
各班1つずつ防災カルタをもち、リーダーが読み手となって始めている。

取組の課題・創意工夫『キーワード：所属意識の向上』

- 自己紹介の他に、防災の歌、防災カルタ、仁方中学校校歌を歌うことで、仁方地域への所属意識を高めている。
 - ・防災の歌、防災カルタは、防災意識を高めるために行っている。この日までに各学級でも防災の歌を練習している。この歌やカルタの中には、仁方地域の地名などが入り、地域のことをよりくわしく知ることにもつながっている。
 - ・仁方中学校校歌については、3週間後に小中合同運動会で歌う必要があり、この日に全校で初めて全体練習をすることができた。

取組の成果（効果）『キーワード：自己肯定感，自己有用感の向上』

○ 「縦割り班顔合わせ会」を行うことによって，6年生がリーダーとしての自覚を持ち，その後の縦割り掃除をスムーズに開始することができた。縦割り班活動を通して，低学年が高学年を目標としたり，感謝の気持ちをもったりし，高学年は低学年に優しく接することができている。また，高学年は低学年に慕われることで，自己肯定感や自己有用感が向上してきている。

【縦割り班掃除の内容】

ア 週4回実施し，掃除場所は，2ヶ月に1度替わる。

イ 縦割り掃除の1回目に，6年生がリーダーとなって，掃除場所の確認と，自分が何を分担するか話し合う。

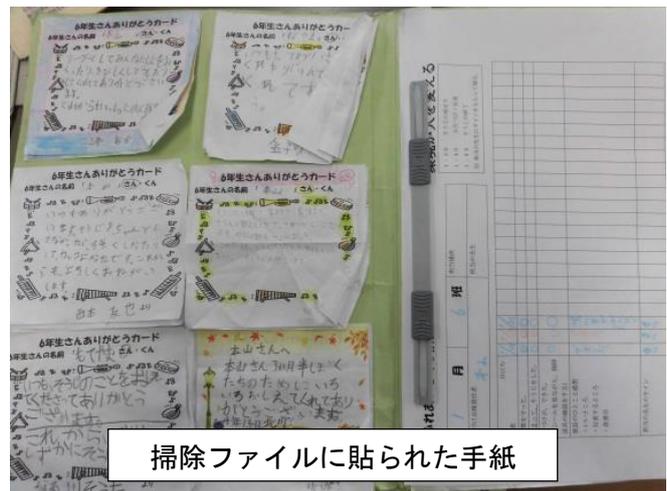
ウ 集合→リーダーが班員を確認して掃除開始（約10分間）→片付け→集合して反省

【縦割り班掃除のポイント】

ア 6年生がリーダーとして，時間の流れに沿って声をかけたり，下級生に掃除の仕方を教えたりしている。

イ 掃除の反省をする時に，リーダーが本日の掃除の評価をする。がんばっているところを評価していくように，最初の2週間は先生ががんばっているところを評価して，リーダーにお手本を示し，指導している。この評価の場を設定することで，6年生はリーダーとして班全体に目を向け，良さを褒め班も互いに認め合うようになってきた。

ウ 縦割り班の掃除場所を変更する2ヶ月毎に，班員が6年生に対し，感謝の気持ちをこめてお礼の手紙を書いている。6年生はうれしそうに手紙をもらい，中には掃除ファイルに貼り付けている児童もいる。この毎日の掃除の他に，学期2回は朝会や学校行事で縦割り班で遊ぶ異学年交流を行っている。



掃除ファイルに貼られた手紙

【下級生から6年生への手紙の内容】

いつもそうじのことをおしえてくださってありがとうございます。これから，ぼくは，しずかにそうじをします。

たてわりそうじのとき，いつも，やさしくおしえてくれて，ありがとうございます。

今後の展開『キーワード：リーダーの引き継ぎ』

ア 縦割り班でのその後の活動

→児童朝会（月1回），「わくわくオリエンテーリング」（6月：特別教室や体育館で委員会毎にクイズやゲームを企画運営し，縦割り班で体験してまわる活動），「ドッジビー集会」（10月：ドッジボールを柔らかいフリスビーに代えて行う）

イ 「6年生ありがとう集会」（3月）

→お世話になった縦割り班の6年生に感謝の言葉を発表したり，縦割り班の6年生に感謝のコメントを書いてプレゼントしたりする。

→今まで6年生がしてきた学校の仕事（交通安全推進隊：学期始めに正門であいさつ運動をする。縦割り班掃除のリーダー）を5年生に引き継ぐ簡単な式も行う。

ウ 「6年生ありがとう集会」の次の日から，卒業式までは，集団登校，次年度の委員会の仕事（次年度の委員会は3月に決定），縦割り班掃除は，次年度の最高学年となる5年生へ引き継ぐ。委員会活動では，毎日の当番活動に6年生が1人入り，やり方を教え，新5・6年は，次年度の委員会の当番活動を開始する。また，集団登校や縦割り班掃除などでも，リーダーとしてどのようにしていけばよいか教えていく。

他校へのアドバイス『キーワード：縦割り班掃除』

異学年交流は，上の学年は自己有用感や自尊感情の向上，下の学年は高学年を目標とすることができたり，感謝の気持ちをもつことができたりして有効な手段である。縦割り掃除を組み入れると，常時，異学年での交流があるのでさらに有効である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長氏名	北村 由美子	生徒指導主事氏名	平野 知子
-----	------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『1年生と仲良くなる会』

取組のねらい『異学年交流による心の居場所づくり』

- ① 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員として自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ② 1年生と楽しく活動することで、互いに認め合い、喜びを実感できる「心の居場所づくり」をめざす。
- ③ 「あいさつをしたり楽しくお話をしたりする」(1年生)・「1年生にあいさつをしたり、声かけをしたりする」(他学年)という目標を決めて取り組む。

取組の具体的内容『ゲームを通じた絆づくり』

内容 (司会進行・・・平成27年度 前期児童会役員)

- ①はじめの言葉 (児童会役員)
- ②校長先生のお話
- ③児童会あいさつ (児童会役員)
- ④学年ごとのゲーム

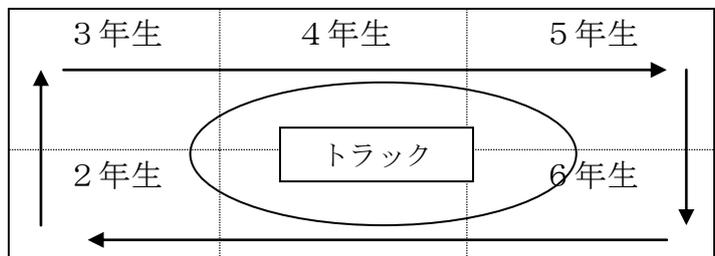
※ 学年ごとに1年生を迎え、全校で同時にゲームをする。

(各学年でゲームを考え、準備しておく。)

※ 1年生は5グループに分かれ、各学年を約10分ごとにローテーションする。

※ 1年生はグループごとに最初に自己紹介をさせる。

※ 1年生の5グループに担当の職員を配置する。



- ⑤ 1年生へのプレゼント渡し

※プレゼントは6年生が用意し、1人1人に手渡す。

- ⑥ 1年生のお礼の言葉
- ⑦ 終わりの言葉 (児童会役員)
- ⑧ 1年生退場

★実施後、1年生と活動したことを川柳に書かせる。

★川柳を昼の給食放送で紹介する。



取組の課題・創意工夫『点の取組から線の取組へ』

課題

- 1年生と他学年との交流が、行事の時以外の日常的なものにはなっていない。たてわり班での遊び・読み語りなど、異学年交流を工夫していく必要がある。

○高学年に「下級生のお手本」ということを意識させ、下級生が「なりたい自分」として上級生を尊敬できるようにすることで、高学年がお手本となる、よりよい伝統をつくっていく。

取組の成果（効果）『自己存在感と共感的人間関係の育成』

○全体としては児童会が、学年ごとのゲームの場面では、各学年が中心となって企画・立案・準備・進行することを通して、主体性や自主性を育成することができ、協力して取り組むことができた。

○6年生は、プレゼントを作って直接1人1人に手渡すことを通して、1年生を思いやる心が育つとともに、最上級生としての自覚をもつことができた。

○1年生は、上級生に声をかけてもらったり、一緒にゲームを楽しんだりすることを通して、上級生や学校に親しむことができた。

○児童会役員は、1人1人が役割を分担し、協力して取り組むことを通して、自己存在感を与えることができた。

○行事全体を通して、児童相互の共感的人間関係を育成することができた。

今後の展開『心のバトンをつなぐ』

『6年生を送る会』

○5年生の児童会役員にとって、初めての児童会行事の企画・立案・準備・進行となる。学校のリーダーとしての自覚を持ち、協力しながら、それぞれの役割を果たすことで自己存在感・自己肯定感の充実を図る。

○1年生から5年生は、お世話になった6年生にメッセージを用意することを通して、感謝の気持ちをもつとともに、一緒にゲームなどを楽しみ、共感的人間関係を深める。

他校へのアドバイス『児童もミドルリーダーの育成を』

○各学年がゲームを準備することで、全校で同じゲームを楽しむよりも、1年生以外の学年が、主体的に活動することができる。

【 振り返りの川柳 】

これからも
心をつないで
遊ぼうね

仲良くね
そしてお手本に
ならなくちゃ

目を合わせ
「よろしく」と言ったら
笑ってた

顔見ると
笑顔がたくさん
あふれてた

あの笑顔
見るとこっちも
ニコニコに

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長氏名	沖野 稔則	生徒指導主事氏名	瀬尾 啓子
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『異学年読み聞かせ活動』

取組のねらい『キーワード：自己有用感を高める』

- ・ 低学年に読み聞かせを行うために、本選び・練習など責任をもってやりきらせることで、高学年児童の自己有用感を高める。
- ・ 読み聞かせを通して異学年の交流を深める。

取組の具体的内容『キーワード：関わり合い』

- ・ 6年生→1年生，5年生→3年生，4年生→2年生に，読み聞かせを行う。
- ・ 高学年は，学級内で4人程度ずつのグループをつかって活動する。
- ・ 高学年は，グループで事前に本を選び，読み聞かせの練習をする。（各学級で記録をとり，同じ絵本にならないように留意する。）
- ・ 毎月1回（原則第3金曜日）の朝読の時間に，高学年の各学級から1グループずつが，指定している低学年の教室に出向いて実施。（1回10分以内）・ 低学年は，聴く態度に気をつける。



取組の課題・創意工夫『キーワード：(高)達成感 (低)感謝』

- ・ 他の活動（入学式，年度当初の掃除や給食準備の手伝い，春の遠足，体力テストなど）で交流することの多い6年生・1年生をペア学年にし，さらに交流を深めるようにしている。
- ・ 高学年は，グループで話し合っ本を選ぶ時間や練習する時間を確保する。練習は，朝読や休憩の時間を活用し，役割分担や読み方の工夫をお互いにアドバイスしながら仕上げさせていく。
- ・ 低学年は，読み聞かせが終わったら，高学年に拍手したり，感想やお礼を言ったりすることで感謝の気持ちを伝えるようにする。

< 6年生の日記より >

ぼくは，読み聞かせをして思ったことが2つあります。

1つ目は，グループのみんなと練習したことについてです。

最初は，いやだなと思っていましたが，どの本がいいかなあと思っているうちに楽しくなってきたので，やろうという気持ちになりました。みんなと一生懸命練習して本番にのぞんだことで，読み聞かせが終わると，前よりも仲良くなれたかなあと思いました。

2つ目は，1年生に喜んでもらったことです。

グループのみんなが本を読んでいるときは，すごく静かに聞いてくれて，それだけでもうれしかったのに，さらにお礼も言ってもらったので，とってもうれしかったです。

取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』

- ・ 高学年は、相手意識をもって、本選びや役割読みの練習をしている。練習の際は、どのように読んだら低学年に分かりやすいかを考え、互いにアドバイスをし合っている。
- ・ 低学年は、読み聞かせのとき、一生懸命聴いている。また、高学年の読み聞かせの姿を見て、あこがれの気持ちを抱く児童もいる。

<1年生の感想より>

いままでいろいろな本をよんでくれてありがとうございました。おもしろい本もあったし、すこしふしぎな本もありました。

わたしは、よみきかせがある日をたのしみにしています。わくわくします。その日のあさは、れんらくちょうをかくのをはやくおわらせます。

6年生が本をよんでくれたとき、ほんわかします。わたしも、はやく6年生になりたいです。

- ・ 4年生は、総合的な学習の時間の取組でも、自主的に「絵本読み聞かせ隊」をつくり、読み聞かせを行っていた。
- ・ 他の取組とも合わせ、特に、高学年の自己有用感が高まった。
(6年生児童アンケート：9月58%→1月73%)

<6年生の日記より>

私たちのグループは、10月16日に、1年1組に行きました。

私が気をつけたのは、1年生に聞こえる声でゆっくり読むことと、1年生の顔を見ながら読むことです。特に、私は、よく早口だと言われるので、ゆっくり読むことを意識しました。

1年生の教室に入る前は、少し緊張していました。失敗したり、焦って早口になったりしないか、不安になりました。でも、読み始めると1年生のみんなが真剣に本の絵を見て話を聞いてくれるのが分かって嬉しかったし、少し安心しました。

読み終えてから、1年生が嬉しそうにお礼を言ってくれたのを見て、とても嬉しかったです。

異学年読み聞かせが始まって、本当に良かったな、と思いました。

今後の展開『キーワード：継続・創意工夫』

- ・ 2月の最後の異学年読み聞かせが終わった後、低学年全員がお礼の言葉などをミニカードに書き、高学年に渡して感謝の気持ちを伝える。
- ・ 3月のあいさつ運動では、異学年読み聞かせの学級がペアとなり、一緒に行く。

<6年生の日記より>

ぼくは、読み聞かせをして心に残っているのは、1年生がすごく真剣に本を聞いてくれたことです。ぼくは、始めはすごく緊張していて、言葉などをまちがえるかもしれないなど、いろいろなことを思っていたけど、1年生は、ぼくたちが読んでいるのをすごく真剣に聞いてくれたので、少し緊張がなくなりました。

今度は、本を通してではなく、他のことでも交流ができればいいなと思いました。

他校へのアドバイス『キーワード：点から線へ』

- ・ 読み聞かせを行う学年や学級のペアは、その場限りではなく、様々な他の活動とも連動させていくと、さらに交流が深められると思われる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立友和小学校	校長氏名	熊谷 裕之	生徒指導主事氏名	田邊 由貴子
-----	------------	------	-------	----------	--------

取組事例名 『つながりを深めるデー』**取組のねらい『キーワード 人間関係を深める』**

小学生と中学生が交流することで児童生徒同士の人間関係を深めるとともに、6年生児童の中1ギャップを解消し、中学校へのスムーズな移行につなげる。

取組の具体的内容『キーワード 中学校への展望を持つ』

1時間目に「つながりを深めるデー」のはじめの会をして、あいさつや班編成、自己紹介、集団ゲームなどをした。中学生と一緒に集団ゲームをすることにより、中学生と仲良くなることができた。2時間目に中学生が小学生の授業のサポートをした。中学生に学習のサポートをしてもらうことで、中学生に対してあこがれの気持ちをもつことができた。3時間目に6年生と中学生と一緒に小学校の校内を掃除した。(雨天のため、校外を掃除する予定が、校内を清掃することに変更になった。)一緒に掃除をすることでつながりを深めることができた。5時間目に中学校への展望を持つということ、中学生が中学校生活について説明をした後、6年生の質問に答えた。中学校生活について知ることができ、中学生になるのが楽しみになったという児童もたくさんいた。

取組の課題・創意工夫『キーワード はなまる』

取組の課題は、ちょうど梅雨時期のため、雨が降り、外での掃除をすることができなかつたことがあげられる。創意工夫は、中学生にサポートをしてもらえる授業内容を工夫したことがあげられる。算数では、たし算やひき算のひっ算を中学生が一人一人に指導してくれた。赤鉛筆をもって、はなまるなどもしてくれて、中学生と小学生の良好な関係を作ることができた。

取組の成果(効果)『キーワード 良好な関係』

中学校3年生の生徒が、先輩として出身小学校の児童の活動をサポートすることを通して、思いやりの気持ちと態度を育てることができた。また小学生は、中学生に学習をサポートしてもらうことで、中学生に対して尊敬の気持ちをもつことができ、中学生と良好な関係を作ることができた。

今後の展開『キーワード 小中連携』

今後も電話や合同部会の会議で、こまめに情報交換をしていき小中連携を密にしていく。児童や生徒の遅刻や早退、欠席の状況などを共有し、6年生がスムーズに中学校へ行けるようにしていきたい。また入学説明会での体験授業や部活動の体験活動も大切にしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 自己有用感を育てる場』

中学生が出身小学校を訪れる機会があると、教職員が成長した姿を見ることができる。また、中学生にとっても出身小学校を訪れる機会があると、小学生に学習を指導したりして、自己有用感を感じることができる。中学生と小学生の自己有用感を育てる場として、「つながりを深めるデー」のような企画を計画することをお勧めします。

「つながりを深めるデー」写真



「つながりを深めるデー」児童の感想

・「つながりを深めるデー」の1日は、中学生の人からいろいろな事を学びました。たとえば、中学生になると勉強が難しくなることが分かりました。中学生が来てくれたことで、中学校に行くことが楽しみになりました。ぼくが中学生になる時は、三年生の人はいなくなるけれど、ぼくたちが三年生になったら、今日中学生がしてくれたみたいに優しくしてあげたいなと思いました。

・「つながりを深めるデー」は、中学生といっしょに「来い来い」ゲームをしたり、給食を食べたり、佐伯中学校について学んだりしました。そのおかげで、中学校三年生と仲良くなることができました。ぼくが一番心に残ったことは、教科により先生が変わることや、制服のイメージは、自然の森ということです。佐伯中学校も楽しそうだなと思いました。

・今日は、佐伯中学校の三年生のみさんから佐伯中学校の事についてたくさんの事を学びました。給食の事や下校時刻の事など、わたしの知らない事をていねいに教えてくださいました。そうじの時間では、みんなのリーダーとなり、そうじの指導をしっかりしてくださいました。授業で分からない所があったら分かるまで教えてくれたので、よく分かりました。分かった時はとてもうれしかったです。今日学んだ事は、これからの小学校生活と中学校生活に生かしていきたいです。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長氏名	奥 金実	生徒指導主事氏名	林 寛
-----	-----------	------	------	----------	-----

取組事例名 『縦割り活動』

取組のねらい 『互いに支え合う活動』

- ・縦割りグループの仲間が、一緒に掃除したり食事をしたり遊んだりすることを通して、学級や学年の枠を超えたかわりを深める。
- ・下級生は、集団生活におけるルールやマナーについて上級生から学び、上級生は下級生のケアをする中で責任感を身につける。
- ・グループの担当者は、清掃活動等の時間を共に過ごすことで児童のいろいろな面を知り、後の生徒指導にいかす。

取組の具体的内容 『いろいろな場面で』

1 縦割り掃除

赤・青・黄・緑それぞれ 1～15 の縦割り班を作り、掃除を分担して行う。縦割り班の人数は、それぞれ 15 人程度とする。前期（4～10 月）と後期（11～3 月）で編成替えをして、より多くの児童との触れ合いの機会が得られるようにする。清掃後の反省会の司会は、6 年生のリーダーが担う。

2 1 年生歓迎遠足

縦割り班を活用して、全校で同じ場所に遠足に行く。出発式から解散式までを児童会執行部の 6 年生が取り仕切る。全行程を縦割り班で並んで歩く。6 年生は 1 年生と、5 年生は 2 年生と、4 年生は 3 年生と手をつないで歩く。食事やレクも縦割り班で活動する。



① 6 年生の「いただきます」でいっせいに弁当を開く。② 新聞紙に何人乗れるか。上級生は下級生をおんぶして。

3 仲良し給食・仲良し遊び

前後期それぞれ 1 度ずつ実施する。お弁当給食に切り替えて、校内のいろいろな場所で食べる。昼休憩も引き続きグループで活動する。あらかじめリーダーが中心になって相談し決めていたレクや遊びを実施する。

4 マラソン週間

冬季に実施している。3 分間を異学年の児童と一緒に走る。全校で走るには人数が多すぎるため、「本日は赤・青グループの日」といったように、縦割り班を基準にした実施スケジュールを組む。

取組の課題・創意工夫『自主性』

掃除については、なかなか主体的に動けていない実態もある。1・2年生があまり活動していなかったり、3・4年生がリーダーの指示に従わなかったりしている場面もないわけではない。また5・6年生の中にも、面倒そうな素振りを見せる児童もいる。

いろいろな取組を決定するのは児童自身であり、話し合いも重要となる。仲よし遊びの決定などでは、わがままな気持ちを抑え、みんなの意見を聞きながら決定していくプロセスを大切にしたい。

取組の成果（効果）『責任感』

いろいろな場面で縦割り活動を取り入れている本校では、特にリーダーの6年生は重い責任を負っている。リーダーの行動は、そのすべてが下級生の目に映っており、尊敬の念を抱かせる振る舞いをしなくてはならない。一部のリーダーには、そこまでの自覚をもてていない児童もいた。それでも、担当教職員の声かけや担任からのアプローチにより、徐々に責任感のある態度へと変容してきた。また、学級では素直に自分を表現できていない6年生が、縦割り班の中では、良きリーダーとして、下級生に対して優しい一面を見せている例もある。

今後の展開『感謝』

6年生を送る会に向けたプレゼントづくり

3月1日の6年生を送る会は、各学年からの出し物を中心とした心温まるイベントである。その中の重要なプログラムに「1～5年生からのプレゼント渡し」がある。特別活動の時間を1時間使い、縦割り班の1年生から5年生が集まってメッセージ集を作る。次期リーダーとなる5年生が中心となって作業を行い、協力して6年生への感謝の気持ちをつづったメッセージ集を完成させる。表紙には、グループのみんなで集合した笑顔の写真が使われる。

他校へのアドバイス『楽しんで取り組む』

日常的には触れ合うことの少ない担当学年以外の児童の顔と性格がよくわかり、指導者としても楽しい出会いがある。このような児童理解の形も有意義なものだと思う。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野第三小学校	校長氏名	小田原 かおり	生徒指導主事氏名	上田中 泰子
-----	-------------	------	---------	----------	--------

取組事例名 『V・S(ボランティア・サービス)朝会』

取組のねらい『異学年交流・協力・責任感』

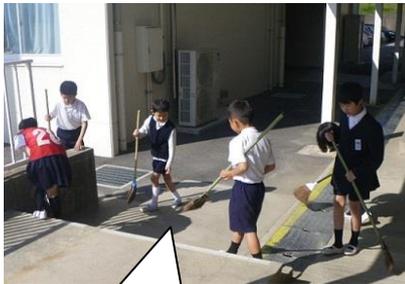
- ・ともに働いたり、かかわったりする活動を通して、他学年との交流を大切にする。
- ・協力することの大切さを学ぶ。
- ・高学年としての自覚や責任感をもつ。

取組の具体的内容『学校のため・みんなのため』

毎月第3木曜日 8:15～8:25

その月の担当者(6年生・委員会)が考えた活動を縦割り班で行う。

5月「掃除」



普段の掃除ではできにくい所を見つけて、きれいにしました。

6月「読み聞かせ」



梅雨の時期なので、教室で読書が楽しめるように、絵本の紹介をしました。

7月「草ぬき」



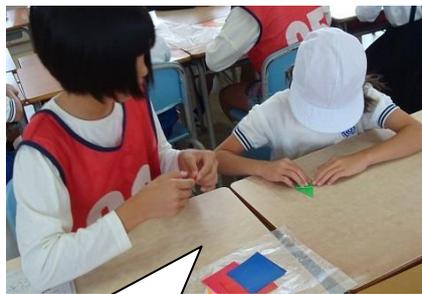
運動場の草がのびてきたので、環境委員会の提案で草ぬきをしました。

9月「石ひろい」



運動委員会の提案で、運動会のために石ひろいをしました。

10月「折鶴づくり」



6年生が社会見学で平和公園へ行くので、みんなで折鶴をおりました。

11月「落ち葉ひろい」



学習発表会が近づきました。落ち葉ひろいをして学校をきれいになりました。

12月「大掃除」



年末なのでみんなで特別教室の大掃除をしました。

1月「正月遊び」



1月といえばお正月。かるたやすごろくをして遊びました。

取組の課題・創意工夫『気づき、考え、実行する』

- ・毎年新しい縦割り班を形成する際、配慮を要する児童に関してしっかり情報交換する必要がある。
→初めての縦割り班活動を5月にした。
- ・活動内容は、昨年度の活動例を参考に6年生が考える。学校のため、みんなのためにどんなことをしたらよいか気づき、考え、実行できるようにする。→話し合いの時間を確保できるようにした。
- ・6年生が達成感を味わうことができるようにする。→毎回、振り返りカードを書き、そこに担当者がひとことコメントを入れて、ほめるようにした。

取組の成果（効果）『みんな笑顔で、達成感』

- ・6年生は、リーダーとしての責任感が育ち、達成感も感じることができる。
- ・異学年で交流することで、下学年に優しく接する児童が増えた。上学年に優しくされて教室とはちがう表情を見せる児童もいる。
- ・協力することの大切さを感じることができる。

縦割り班の班長をやっとうれしかったことは、みんなの笑顔が見られたことです。活動や反省のときに「楽しかったよ。」「そうじががんばったよ。」と言って笑ってくれたときは、班長をやっとうかったなとおもいました。(6年女子)

6年生としてのぼくの目標は「みんなの手本になる」でした。特に、V・S朝会では下学年に手本を見せようと、はりきって活動しました。初めは、あまり話さなかった班の人と、だんだん仲良くなって、ぼくにっいてきてくれるようになりました。がんばってよかったなと思いました。(6年男子)

はん長のお兄さんがいつも教室にむかえにきてくれてうれしいです。やさしいです。ありがとうございます。(1年女子)

今後の展開『伝統の引継ぎ』

V・S朝会は5年間続いた取組です。毎年2月と3月に、6年生から5年生へ引継ぎが行われます。自分の班の5年生に方法を教え、近くでアドバイスしながら見守ります。5年生は「伝統」を引き継ぐことになり、6年生としての自覚につながります。伝統を大切にすることをつないでいきたいと思います。

他校へのアドバイス『縦割り班の活用』

縦割り班での活動は、V・S朝会だけではありません。本校では、縦割り昼食会や縦割り遊びもしています。1年間の活動を通して、交流が深まっていき、よりよい活動になっていくと思います。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田小学校	校長氏名	平川 博秀	生徒指導主事氏名	本田 光洋
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『吉田小学校フェスティバル～夏～』

取組のねらい『キーワード：6年生の活躍，異年齢交流』

自治的な活動を仕組んでいくことで6年生児童の活躍の場を設け，自己有用感・自己肯定感を高める。また，縦割り班活動で異年齢交流を行い，望ましい人間関係を深める。

取組の具体的内容『キーワード：6年生，縦割り班』

遠足，運動会の取組の中で協力してくれた1～5年生に，6年生が感謝の気持ちを表す会を開く。17の遊びのブースを6年生が企画・準備・運営する。そのブースを，1～5年生が縦割り班で回って，レクリエーションを楽しむ。



アルミ缶積み



聖徳太子ゲーム



なかみ当て



豆つかみ



魚釣り

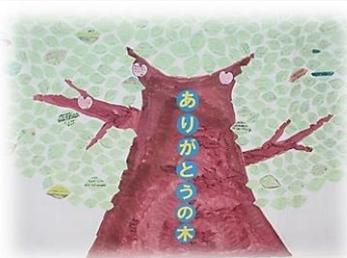


パットゴルフ

取組の課題・創意工夫『キーワード：共通理解，時間，空間』

6年生に新たな目標となる活動を設定し，歓迎遠足や運動会の中で身に付けた力を発揮させることで，児童の中に主体的に学校をよりよくしていこうという動きをつくっていくことをねらった。工夫としては，児童が主体となる動きになるように，事前に児童会・学年会などで会の目的や意義について共通理解を図った。課題としては，1学期末に行ったため，準備の時間が十分取れなかった。しかし，時間がないゆえに休憩時間，放課後などを利用して自主的に児童が活動する姿が見られた。また，遊びの空間として各教室をブースにしたため，事前の準備や，事後の片づけの時間も十分とれなかった。児童会を中心に提案していきながら，縦割り班活動が継続的な取組となるように，時間を確保していく必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード：感謝（ありがとう）』

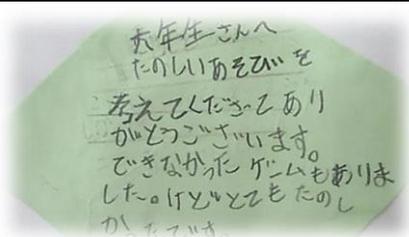


6年生の自己有用感・自己肯定感を高めるねらいで，「ありがとうの木」の取組とつなげていった。ありがとうの気持ちを葉っぱに書いて掲示していく取組であるため，各学年のありがとうの気持ちが形になり，6年生に「やってよかった。」という思いを実感させることができた。

また，各縦割り班に担当の教員がついており，当日，担当の班と供にブースを回り，6年生の活躍にふれることができたため，各教員が6年生を評価することができた。これにより，6年生と各職員との関係がより近くなった。

また，活動を通して，6年生の中に自信が生まれ，「学校をよりよくしていこう」「新しい取組に挑戦していこう」という意欲が高まった。

さらに、6年生はブースを複数で担当していたので、この活動を通して、6年生児童の中の望ましい人間関係が深まった。また、縦割り班で楽しいゲームに取り組んだことで、1～5年生の間の望ましい人間関係も深まった。



【ありがとうの木の葉】

<児童の感想から（4年生）>

6年生のみなさんが、ゲームのお店をひらいてくれて、吉小フェスティバルをしました。私が一番心にのこったのは、「中身あてゲーム」と「ビンゴゲーム」です。6年生は、1年生から5年生ができるゲームをたくさん考えていて、「6年生の人はそこまで考えているのだな。」と思ったし、「今日はとっても楽しい一日だったな。」と思いました。

6年生がわたしたちのために、吉小フェスティバルをひらいてくれました。わたしたちによるこんでもらいたいという思いで、今日まで休み時間やほうか後に、じゅんぴをいっぱいしてくれたことが、6年生のえがおからわかりました。わたしは、とてもうれしくてたまりませんでした。6年生にはかんしゃしています。

1学期は、運動会、入学式、まだまだいっぱいとてもすてきなことがありました。わたしだけではなく、みんなもそうだと思います。1学期は、ありがとうございましたとみんなに言いたいです。

今後の活動『キーワード：新しい伝統』

学校行事は、教師側が意図的、計画的に実施していくが、これに児童の発意・発想を効果的に取り入れていくことにより、児童の自主性を育むことができると考える。そうしてできたことを、新しい伝統として残し、つないでいくようにすることが大切だと考える。この活動も、第2回吉田小フェスティバル、そして5年生が中心となる「6年生を送る会」へとつないでいく予定である。行事をすること自体が伝統ではなく、児童の発意・発想を効果的に取り入れることを伝統としてつないでいき、児童が主体的に学校をよりよくしていこうという意欲を高めていきたい。



【昨年度6年生を送る会】

他校へのアドバイス『キーワード：自治的な活動』

生徒指導のねらいである「自己指導能力の育成」は、実践的な集団活動を通して体験的に学ぶことが必要とされている。つまり、望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを主たる目標とする特別活動は、生徒指導の中核的な役割を果たす。学級会や代表委員会などの自治的な活動のシステムを構築し、話し合いによる自治的な活動を地道に続けていくことが、児童の中の主体的に学校をよりよくしていこうという意欲を高める効果的な生徒指導であった。まわり道のように感じるかもしれないが、「困っていることは話し合いで解決する」「よりよい学校・学級になるように話し合う」ということが学校文化として定着していけば、より効果的な生徒指導の取組が行えると考えられる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立小田東小学校	校長氏名	信末 実智則	生徒指導主事氏名	御影 英夫
-----	--------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『一年生歓迎遠足，縦割り掃除，地域ボランティア掃除，縦割り班駅伝大会』

取組のねらい 『キーワード つながり・自覚』

- ・学校や地域の美化活動を通して，これからよりよい学校生活を共につくっていかうとする意欲を持たせる。
- ・縦割り班でルールを守りつながりを深める活動を通して，上級生としての自覚や下級生として協力していく態度を養う。
- ・お互いの体力や体調に気づかいながら，みんなの力でゴールすることにより，お互いのよさや協働して目標を達成することの喜びを味わわせる。

取組の具体的内容 『キーワード ミッションクリア』

- ・縦割り班ごとに校区内の全 7 ポイントをフィールドワークしながら歩き，協力して各ポイントで示された指令（ミッション）をクリアして回る。回る順番は，次の班と重ならないように，班ごとにローテーションさせる。
- ・掃除の仕方を教え，学び，共同でやり遂げる活動を日々進める。
- ・自主的に地域美化活動に参加する機会を設ける。
- ・一本のたすきをつないで走る場を設ける。

取組の課題・創意工夫 『キーワード チャレンジ』

- ・今年度，新たに地域ボランティア掃除を企画し，ボランティア精神の高揚を図ることにした。教員が企画したものであるが，その運営は児童会（企画委員会）に委ねた。
- ・縦割り班駅伝大会を，今年度初めて企画したものである。高学年の走力に学び，また，高学年のリードによる順番決めや配慮などから，新たなことにチャレンジする喜びを共有した。

取組の成果（効果） 『キーワード 達成感・喜び』

- ・縦割り班で新入生を迎えて遠足をするという目的に沿って，安心して安全にかつ楽しいを視点に，高学年が 1 年生の手を引いたり荷物を持ったりするなどほほえましい姿が，それぞれの班でたくさん見られた。
- ・6 年生にとっては，1～5 年のすべての学年の児童を 1～2 人でリードしていくことをとおして，その難しさやできた時の喜びを味わうことができた。
- ・地域を美化する活動を通して，地域の良さを知り，地域の自然や環境を大切にしていこうとする心情をもたせることができた。
- ・今年度初めて「縦割り班駅伝大会」を実施し，走順や 2 回走る人を自分たちで考えるなど，縦割り班で実施することで学年を超えたつながりを強くしながら運動に取り組ませることができた。

今後の展開『キーワード モアチャレンジ』

- ・みんなで協力しながら環境を大切にしていこうとする心情をさらに高めるために、クリーン作戦（ゴミ拾い）を計画的に取り入れたい。
- ・縦割り班活動の充実とともに、今年度から、「誕生日カード」の取組を進めている。これは、誕生日を迎えた同じ班の児童に、班全員が書いたメッセージカードを渡すものである。これによって、児童が更に班員としての所属感や満足感を高めている。

他校へのアドバイス『キーワード モアチャレンジが新たな主人公を生む』

- ・今年度、新たに「地域ボランティア清掃」「縦割り班駅伝大会」等に取り組んだ。この時に、いつもと違った一面が発揮され、それを認め合う場ともなる。更に、それを地域の方が認めてくださる場ともなり、自己存在感を高めていくことができる。

「一年生歓迎集会」



「地域ボランティア」



「縦割り班駅伝大会」



「誕生日メッセージカード渡し」



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長氏名	河野 真由美	生徒指導主事氏名	藤田 光洋
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『縦割り班活動』

取組のねらい『キーワード 栗原しぐさで』

- 他学年との交流を通して、望ましい人間関係をつくる。
- 教え・教えられる関係や、助け・助けられる関係を体験しながら、栗原しぐさの実践を広げる。
 <栗原しぐさ>①立ち止まり、相手の目を見てあいさつをする。
 ②ゆずる気持ちを大事にする。
 ③気持ちの良い学びの場をつくる。

取組の具体的内容『キーワード 児童自らの力で』

1. 縦割り班づくり (全校児童 4色×6班 24班 約25名ずつ 通年)

- 自己紹介 ○仲間づくりゲーム ○「1年生を迎える会」



2. 第1回縦割り班遊び(班対抗戦 4色班長会にて種目決定)

- 折り返しリレー ○綱引き など



3. 第2回縦割り班遊び(班ごとの遊び 班長・副班長にて決定)

- 長縄跳び ○おにごっこ ○ボールゲーム など



4. 卒業に向けて

- 卒業記念品づくり(手づくりのプレゼント) ○「6年生を送る会」

取組の課題・創意工夫『キーワード 他学年を尊重』

○「楽しい」から「やってよかった」に

この活動の意義を考え、単に自分を中心に「楽しい」というだけではなく、他学年の思いや気持ちに気を配り、「相手が喜んでくれた。」「やって良かった。」というやりがいを高学年には求めたい。その意味では、一つ一つの活動後に丁寧な振り返りをさせ、その点での反省・評価が重要となるが、時間的な余裕がなく振り返りの交流などに課題が残った。

取組の成果（効果）『キーワード 6年生の思い出づくり』

○6年生が班長となり、1年生から6年生までをまとめて、活動をリードしてきた。不慣れな児童も何回か経験するうちに、普段学級では見せない上級生としての姿を見せるようになった。低学年から慕われる児童もあり、6年生にとっては自己肯定感を強めていく機会となった。また、その班の集団から卒業のプレゼントや手紙をもらったりすることで、貴重な小学校の思い出を多くの6年生が共有できた。

今後の展開『キーワード 感謝して学校をきれいにしよう』

○2月の生活目標を「感謝して学校をきれいにしよう」と設定し、児童会と6年生を中心としながら、全校で学校をきれいにしていく取組を展開する。その中に、縦割り班も活用しながら、清掃の仕方や工夫を助言し合うような活動にしていき、より密接で豊かな人間関係を築いていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード ○○しぐさで オッケー！』

○本校では、9年前に「栗原しぐさ」を生み出し、現在も児童のすべての行動目標になっている。基本があるので、最低限の指導の統一と共通性が保たれている。具体的な「○○しぐさ」があると、高学年になれば、自分の行動をしぐさに照らし合わせて反省することも、自発的にできるようになる。月ごと、年度ごとの目標も大事にしていくが、本校独自の不動の目標があることは、生徒指導を進めていく上では強みとなると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長氏名	津田 秀司	生徒指導主事氏名	高岡 和也
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『児童会活動（チャレンジランキング大会）』

取組のねらい『キーワード 認め合う』

- 異学年児童と一緒に活動することで、互いに思いやる心や協力して活動しようとする意欲を育てる。
また、異学年集団のよさに気づく。
- 力を合わせて活動する中で、一人一人のよさを認め合う。

取組の具体的内容『キーワード 縦割り班活動』

- 縦割り班（全 20 班）ごとに校内オリエンテーリングを行う。

- ①班ごとに体育館に集合
- ②児童会はじめの言葉
- ③ルール説明



④オリエンテーリング

10種類（魚釣り・じゃんけん・宝探し・ボーリング・イントロドン・聖徳太子・缶タワー・ジェスチャーゲーム・どれだけのれるかな・バランスゲーム）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねる。



〈5年生を中心に、ルールを守り静かに待つ〉

- ⑤班ごとに体育館に集合
- ⑥児童会おわりの言葉

- 翌日の児童集会で、結果発表と表彰を行う。

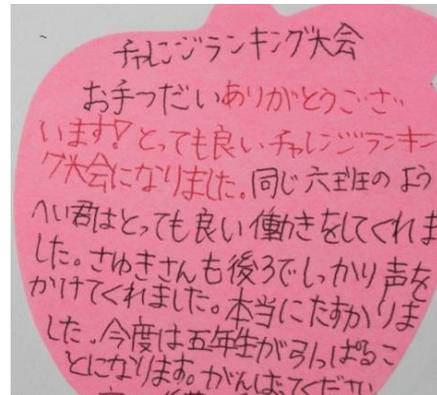
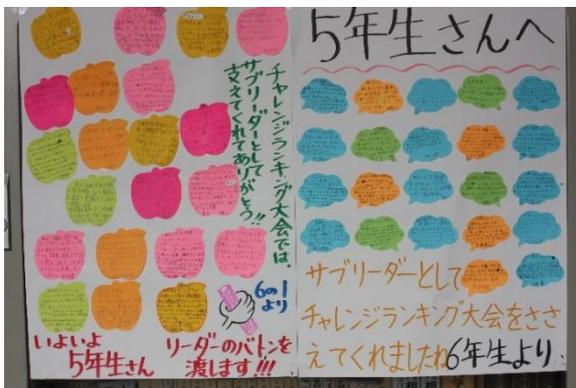


取組の課題・創意工夫 『キーワード 自主性』

- 児童会・6年生が中心になって、企画運営させる等自主性を大切にさせた。
 - ①児童会役員から「チャレンジランキング大会」について提案した。(代表委員会)
 - ※児童会通信「ふれあいニュース」発行
 - ②児童会役員が6年生全員に提起した。
 - ・係、役割分担の決定をした。
 - ・ルールを決め、全児童に周知し、自分たちで守らせた。
 - ・準備物作りをした。
- 5年生がオリエンテーリング時のサポートをした。
- 児童自身が活動の評価をし、各班に手作りの賞状を渡した。

取組の成果（効果）『キーワード 6年生がお手本』

- 高学年（6年生・5年生）一人一人が役割を分担し協力して活動することができた。
- 一人一人の思いや願いを大切にしてい取り組んだことで、自己存在感を与えることができた。
- 協力し助け合って取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで共感的な人間関係を育てることができた。
- 内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。
- 上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよいお手本にしながら楽しい活動することができた。
- 自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。
- 高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。



大会後の6年生から5年生へのメッセージ

今後の展開『キーワード 引き継ぐ』

- 児童会月間生活目標に生かす。例：(1月の生活目標)「他の学年にやさしく声をかけ、元気なあいさつをしよう」
- 3学期、5年生中心の児童会活動（1月：いじめ0キャンペーン月間の取組、2月18日：28年度前期児童会役員選挙 2月10日：選挙運動開始、3月10日：6年生を送る会）につなげる。

他校へのアドバイス『キーワード 年間を通した取組』

- 特別活動が、年間を通して生徒指導の三機能を意図した取組になっていることが大切である。
 - 遠足（1年生を迎える会）、運動会（応援合戦）、学習発表会（全校合唱）、社会貢献活動（地区児童会）、チャレンジランキング大会（オリエンテーション）、6年生を送る会（各学年の発表）など

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立大州中学校	校長氏名	大下 恵子	生徒指導主事氏名	山田 久司
取組事例名 『体育祭や文化祭を通じて』					
取組のねらい 『キーワード 上級生から下級生へ』					
縦割りブロックによる、上級生から下級生への指導を通じて、上級生のリーダー性や自尊感情の育成・向上を図る。					
取組の具体的内容 『キーワード 生徒自身の自主性』					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育祭では、応援団を通じて上級生が応援を行う内容や取り組み方を考え計画を立てる。そして、下級生への指導を行う。また、応援歌の歌唱指導やかけ声指導も団長や副団長を中心に指導していく。 ○ 文化祭では、縦割りのクラスが集まり各クラスの課題曲や自由曲を相互に鑑賞し、上級生のパートリーダーや伴奏者・指揮者を中心に、下級生に指導・アドバイスを行う。 ○ MSV（みんなで しょう ボランティア）は、生徒会を中心とした呼びかけを行った。 					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 上級生の意識向上』					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 上級生のみ、あるいは決まった生徒のみで行う場面があり、下級生への指導が十分に徹底できていない場面があった。 ○ 応援団長やパートリーダーへの具体的な声かけ・指導（昨年度のビデオ鑑賞や音楽科からの専門的なアドバイス）を行うことで、生徒自ら具体的な取り組み方が理解でき、下級生への指導・支援が出来るようになっていった。 ○ MSV では、学校朝会や代議員会での呼びかけを行った。 					
取組の成果（効果） 『キーワード 数値の結果から』					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力学習状況調査の結果では、自尊感情（自分には良いところがある 85.6%・学校に行くのが楽しい 85.6%）を抱いて学校生活を送っている 3 年生の割合は約 86%である。 ○ 学校評価アンケートにある自尊感情「学校に行くのが楽しい」の 1 回目の結果は 88%、2 回目の結果は 91%であった。ほとんどの生徒が自尊感情を持って生活が出来ている。 ○ 学校評価アンケートでのボランティア活動に参加している生徒の割合は、1 年生 80%→84%、2 年生 71%→73%、3 年生 59%→72%であり、生徒会を中心とした呼びかけにより参加人数が増えた。 					
今後の展開 『キーワード 行事のみならず』					
行事のみでの活動になっているので、生徒会を中心にあいさつ運動や登下校指導、上級生のリーダー性が発揮できる取組方法（開始準備から終わりの片付けまで）を生徒会中心に考えていく。					
他校へのアドバイス 『キーワード 年間を通して』					
学校行事（新入生を迎える会、体育祭、文化祭）を年間通して（連続する）行うことで、上級生のリーダーとしての意識が向上し、生徒全体で行事が盛り上がるようになり、伝統が引き継がれていくと思います。					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立培遠中学校	校長氏名	高橋 正明	生徒指導主事氏名	上代 隆志
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『地域に認められる学校から、地域に頼られる学校へ』

取組のねらい 『キーワード 自己肯定感』

- 諸活動を通じて望ましい人間関係を形成することで、問題行動を減少させる。
- 集団づくりを推進し、中間層の生徒を鍛え、集団の質を向上させる。
- 保護者、地域と協働して活動することで地域への所属感、連帯感を深める。
- 生徒会を中心としたリーダー層を鍛えて自治活動を盛んにする。

取組の具体的内容 『キーワード 地域に開かれた学校』

○体育大会

- ・異学年交流を意図して色別で縦割り活動を実施した。3年生をリーダーとして事前指導を行い、自治活動推進の場とした。
- ・特に応援合戦練習、ソーラン演舞では3年生のリーダーを中心に取り組んだ。

体育大会でリーダーから全校生徒への呼びかけ



○地域清掃

- ・校内、あるいは校外に出て保護者、地域の人と一緒に美化活動、バラの植栽をした。
- ・校区内小学校とも連携し、小中の円滑な接続をめざして6年と中2の合同で地域の美化活動をした。

○文化祭

- ・学年、部活単位などで、地域にむけて発信していく。(劇・取組の報告・作品・演奏)
- ・全校合唱の練習では生徒会を中心としたリーダーが活躍する。

文化祭での全校合唱



○校内駅伝大会



タイムトライアル風景

- ・事前に駅伝リーダーを中心に一齐ランニング、タイムトライアルを繰り返して意欲を高めた。
- ・PTAの協力で、走路監視や競技後の豚汁の提供ができた。

PTA豚汁炊き出し



○ボランティア活動

- ・地域行事の運営ボランティア。パフォーマンス発表での貢献。公園のトイレリニューアル。地域に出て災害地域への募金活動。



学校前の公園トイレリニューアル



地域の役員と意見交流



地域文化祭に小学生と合同でソーラン演舞

○短学活交流

- ・各クラスの班長が他学年の短学活を見学し、意見交流することでリーダー育成に取り組んだ。

取組の課題・創意工夫『キーワード 協同・連携・発信』

- 地域と協同して取り組む伝統をどのように継承していくのか。
- 取組がマンネリ化し、アイデア、発想が枯渇していく可能性。
- 意欲的に参加できない生徒層をどのようにまきこむことができるか。
- 地域の各種団体協議会等での積極的な発信を続ける。
- 地域からのさまざまな要請を積極的に受け入れて地域に還元する。
- マスコミ等を積極的に利用して、PRしていくことで広く認知してもらう。

取組の成果（効果）『キーワード 自信・誇り』

- 諸活動に対して、市教委より「学校元気大賞」を受賞したり、「県知事とのチャレンジトーク」に推薦を受けたりして広く活動が認められたことで、特にリーダー層の自信と自己肯定感が高まった。
- 暴力行為、地域からの苦情数は減少している。

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
暴力行為の発生数	14	3	4	7	3
地域からの苦情件数	148	84	70	64	38

○地域清掃活動の生徒の振り返り

清掃活動で一番うれしかった事は、地域の人と協力できたことです。地域の人が、集めたゴミをゴミ袋に入れてくれたり、一緒に掃除をしたりしてくれました。それで、私が「ありがとうございます」と言うと、地域の人たちは、笑顔で返してくれたり、「頑張ってるね」と声をかけてくれました。その時、私はとてもうれしかったです。

○地域清掃活動の参加者の感想

子ども達と直接ふれあう機会が少ない中、絆や連帯感を持つために一緒に汗水を流せてよかった。

- 校区小学校から本校への進学希望者数が増えてきている。
- 地域から肯定的な評価をもらう場面が多くなった。地域からの評価を生徒に伝え続けていくことで、生徒は自信を持ち、学校に誇りを持ち出してきていると感じる。

今後の展開『キーワード 認められるから頼られるへ』

- 各取組の質を高め、小学生から憧れられ、地域から必要とされる学校をめざす。
- 組織的な体制を機能させ、人が代わっても伝統の継承ができる。
- 小中一貫をさらにすすめ、取組につながりを持たせる。

他校へのアドバイス『キーワード 組織的な生徒指導体制』

- 取組には中心となるリーダーが必要である。取組の意図を明確に伝え、納得させる説得力をもつこと。
- 各役割においては、各々が自分の役割だけでなく、少し範囲を広げて仕事に臨むことで、職員同士の重なりしろが生まれる。これは、他の役割に介入することではなく、理解し、気づくことである。組織的な体制はこの重なりしろが重要である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長氏名	左田 和幸	生徒指導主事氏名	岡 真吾
-----	------------	------	-------	----------	------

取組事例名 『生徒の自主性を育てる特別活動』

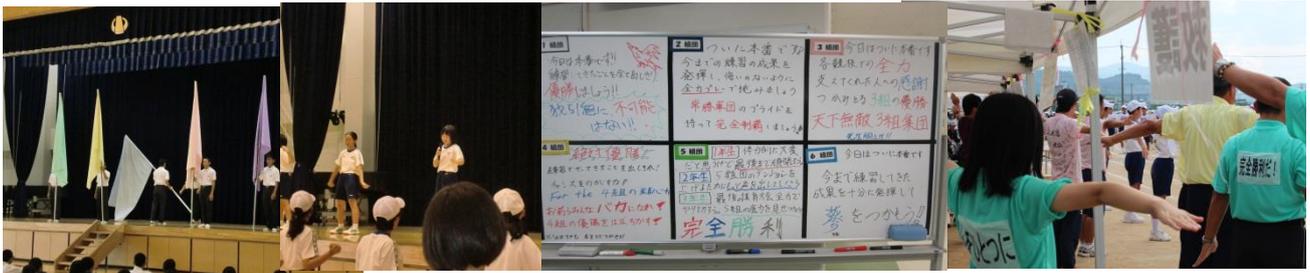
取組のねらい『キーワード 主体的な取り組み』

◎体育大会を本年度から縦割り集団の組団に分けて行った。競技内容や演技内容を1年から3年までが一緒に行うことで、異年齢の集団の中で互いに切磋琢磨し、生徒の主体的な活動にしていく。

◎日ごろからお世話になっている地域の方に、感謝の思いを伝えていく取組である。部活動ごとに、学校周辺の地域でボランティア活動ができる場所や行事を探し参加する。ボランティア活動をすることで、地域の方から信頼されるとともに、認められることにより、自己肯定感や自尊感情を高めることにつながる。

取組の具体的内容『キーワード 主体的に取り組む』

- 体育大会を縦割り集団対抗で行う。
- 縦割り集団で練習や練習計画を立てさせて取り組ませる。
- 毎朝団長に、今日の練習内容をホワイトボードに記入させるとともに、肯定的な評価をさせる。
- 各団で団結力を高めるよう生徒主体で結団式を行わせた。
- 体育大会の練習の集合時間や集合状態について生徒がチェックし評価させた。



結団式の様子 先輩がリーダーに ホワイトボードの記入 教師も各団のポロシャツで

- 地域に必要とされるボランティア活動を部活動ごとに行う。
- 地域の廃品回収や粗大ごみの回収の手伝いを行う。
- 校区内の小学校の環境整備に参加し、小学生、保護者とともに清掃活動を行う。
- 校区内の小学校のスポーツ少年団の大会運営の手伝いや交流を行う。
- 学校周辺のゴミ拾いや草抜きを行う。
- 地域の文化祭やまつりに参加する。



小学校の手伝い 地域の資源回収 通学路のゴミ拾い 地域の敬老会へ出演

取組の課題・創意工夫『キーワード 話し合い・連携』

○生徒会を中心に、各団の団長・副団長が毎日放課後に集まって、本日の反省や次回の練習内容や練習場所の割振りを考えさせ、日に日に生徒の取り組む姿勢が意欲的になった。

課題としては、生徒が進めるようとする練習内容と教師側がやらせようとする練習内容を合わせることに時間がかかった。

○長期休業前に部長会を開き、学校周辺でどんなボランティア活動ができるか考えるとともに、地域からあった依頼についても紹介し、活動できる部活動で振り分けを行った。4月のスタート当初から、中学校区の小学校との連携の中で、中学生が役に立てる活動はないだろうかと相談したことで小学校の環境整備に参加することができた。

課題としては、生徒がやりがいを感じられるような、取組内容を準備しなければならない。また、生徒が見つめてきた取組内容の中には、安全面や時間帯で取り組めない内容もあった。

取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の高まり』

自主的に体育大会の運営や各団での教え合いを行うことで、自分達でやりきったという自信につながり、自己肯定感が高まった。また、実際にボランティア活動を行うことで、地域の方にあたたかい言葉をかけていただき、達成感や自己肯定感を高めることにつながった。特に、校区内の小学校での取組では、小学校6年生と一緒に取り組むことで、小学生は中1ギャップの解消になった。また、中学生は小学生や保護者の方から感謝の言葉を頂き達成感を感じた。日頃、自分たちだけでやりきることや、ほめられないことがない生徒も頑張っていることを評価してもらい、ほめてもらえる、認めてもらえる場面を作ることができた。取り組み後の生徒の感想を見ても「やりきった」「仲間意識が高まった」「自分たちの住んでいる地域に貢献できた」ことに誇りに思っている生徒が数多くいた。

今後の展開『キーワード 中央中の伝統へ』

今年度から始めた取組ですが、今後も続けていき中央中の伝統にしていくことが目標である。

体育大会の取組を中心に、生徒が主体的に活動する取組を増やしていきたい。また、ボランティア活動は、校区内の小学校などとしか連携がないので、校区内の施設や住民代表などとも連携し、地域貢献できる場所を増やしていきたいと思っている。また、生徒自身も地域の役に立つために何ができるか考え、主体的に取り組み、地域に貢献できる生徒を育てていく。

他校へのアドバイス『キーワード 連携』

地域ボランティアを考えていくときに、校区内の他校種の学校と連携をとって、事前に準備しておくことが大切である。また、地域の方や保護者にもこの地域ボランティア活動の取組を知らせるとともに理解してもらい、学校に協力していただく体制を作っておく。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台中学校	校長氏名	田浦 由紀夫	生徒指導主事氏名	秋本 豪
-----	-------------	------	--------	----------	------

取組事例名 『出前掃除』

取組のねらい『キーワード 掃除を通じたかわり』

- ・掃除を通して、**親睦**を図る。
- ・小学生が、**掃除のやり方**を学び、今後の生活に活かす。
- ・中学生が、小学生から認められることを通して、**自己有用感**を抱く。

取組の具体的内容『キーワード 掃除の伝統の継承』

- ・小中生徒指導主事が連携し、各小学校における掃除の**役割分担**を作成する（原則出身小学校に戻る）。
- ・中学生が各出身小学校体育館に移動し、小学校管理職より**歓迎の挨拶**を受ける。
- ・中学生が、各**掃除担当場所に移動**する。
- ・**自己紹介**を行い、お互いに顔と名前を覚える。
- ・中学生が掃除リーダーとなり、**掃除開始の挨拶**をする。
- ・中学生が**掃除実践（※ 阿中掃除の五箇条）**をしながら、小学生に掃除を教える。
- ・掃除終了後、掃除ミーティングで**掃除の反省**を行い、お別れをする。
- ・中学生が体育館に戻り、小学校管理職より**お礼の挨拶**を受ける。
- ・小学校管理職に対して、**中学生代表が挨拶**をする。
- ・中学生に対して、**小学生が礼状**を書く。
- ・中学生が、小学生の**礼状を受け取る**。



小学校校長より歓迎挨拶



掃除実践の様子

※ 阿中掃除の五箇条

- ①無言掃除 ②阿中拭き ③気づき掃除 ④チャイム to チャイム ⑤スピード感

取組の課題・創意工夫『キーワード 教職員による適切な支援と中学生リーダーの育成』

・教職員による支援

中学生がリーダーシップをとりながら小学生と一緒に掃除実践をしているときに、教職員がいかに支援するかが課題である。具体的には、小学生が動きを理解できていない場合には小学校教職員による適切な支援、中学生が小学生の動かし方に苦慮している場合には中学校教職員による適切な支援が必要である。



教職員による支援

・中学生のリーダー育成

普段の掃除から「掃除リーダー」として育成をしておくことで、小学校へ行ってもいつも通りの姿勢で掃除に取り組ませるようにする。

また、小中の生徒指導主事が小学生・中学生の特性を配慮しながら役割分担することにより、中学生がリーダーシップを発揮して小学生・中学生がともに全力で掃除に取り組める環境づくりをする。



中学生による率先垂範

取組の成果（効果）『キーワード 憧れと自己有用感』

- ・小学生が中学生の掃除する姿に**憧れ**を抱く。

【小学生の感想より】

- ・「阿中拭き」をしている姿を見て、素敵だなと思いました。自分もそうなりたいと思いました。
- ・私が一番すごいなと思ったことは、便器をきれいに磨いていたことです。理由は、すみずみまできれいにやっていたからです。

- ・小学生の頃から、掃除に対する**価値観**を醸成する。

【小学生の感想より】

- ・僕はあまり掃除が好きではなかったけど、おかげで少し掃除が好きになりました。
- ・正しい掃除のやり方を知ることができました。これからは、隅々まで丁寧に掃除ができるように心がけます。

- ・中学生が小学生からの感謝状を受け取り、**自己有用感**を感じる。

【中学生の感想より】

- ・小学校の経験により、阿中拭きを中学校に入学してもためらわずすることができ、今でも役立っている。
- ・小学生に教えることで、自分の成長や伝統としての掃除の大切さを再確認することができた。
- ・「阿中拭き」や「気づき掃除」を教えることで、自ら伝統を繋いだことや、さらに受け継いでほしいと感じた。

今後の展開『キーワード 掃除の効果の活用』

- ・掃除をすることに対する全体的なムードは醸成することはできているものの、一人一人にとって主体的な取組になっているとは言いがたい。主体的な取組により、生徒一人一人の心をきれいにしたり広くしたりできるように導きたい。
- ・掃除を通して得られる充実感や達成感が、学ぶ姿勢や主体的な活動につながっていくようにしたい。

他校へのアドバイス『キーワード どこでも だれでも いつまでも』

・どこでも

本校にしかできない取組ではなく、やろうと思えばどの学校でもできるシンプルな取組である。

・だれでも

教職員が異動で不在になっても、つながろうと思えば続けることができるシンプルな取組である。

・いつまでも

特別なイベントとして単発で終わる実践ではなく、小中9年間を見据えて長く継続させることで掃除が当該中学校のみならず、当該中学校区の「校風」や「文化」となる。それが当該中学校区における「見えない生徒指導力」として効果を発揮するだけでなく、地域連携へと波及していくものと思われる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長氏名	砂田 雅志	生徒指導主事氏名	三輪 範弘
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『 つながりを深めるデー 』

取組のねらい『キーワード：つながり』

- 小学生と中学生の交流を通して、児童生徒相互の人間関係を深め、小学校 6 年生児童の中学校へのスムーズな移行につなげる。
- 佐伯中学校 3 年生が、先輩として出身小学校の児童の活動等をサポートすることを通して、思いやりの気持ちと態度を育てる。
- 「はつかいち縦断みやじま国際トライアスロン大会」に来られる人を気持ちよく迎えるために、地域の清掃を行うことを通して、ボランティア精神と地域を大切に思う気持ちや地域への感謝の気持ちを育てる。

取組の具体的内容『キーワード：自己有用感と感謝』

- 中学 3 年生が出身小学校を訪問し、授業の支援（ピア・サポート）やクリーン活動（地域一斉清掃）、中学校オリエンテーションなどを行い、小学生と 1 日を共に過ごす活動。

- 1 はじめの会（構成的グループエンカウンター）
- 2 授業の支援（ピア・サポート）
 - ・中学生にとっては「自分のアドバイスから小学生の役に立っている。」という自己有用感につながっている。
- 3 クリーン活動（地域一斉清掃）
 - ・小中学校ともに地域に貢献しているという自己有用感の高揚となっている。
- 4 給食・校内清掃
- 5 交流会（中学校オリエンテーション）
- 6 終わりの会
 - ・小学生、中学生相互に感謝の意をことばであらわす。
- 7 振り返り（中学生のみ）



取組の課題・創意工夫『キーワード：自己決定と自己有用感』

- プログラムの中に、中学校の生徒が自分で考え、判断して、決めて実行できる場面を意図的に設定する。自分が小学生の時のことを思い出しながら、「出身小学校の児童たちが、どのように接すればうれしいと思うか、不安な気持ちが



解消されるか。」など、意見を出し合いながら考え、自己紹介の方法や中学校のオリエンテーションなどの内容を

決めていく。このことが、生徒の「自分たちが主体的に自分で決めて実行しているんだ。」という気持ち（自己決定感）を育てることにつながる。また、小学生の笑顔を見て、「来てよかった」と自己有用感を感じることもつながる。



取組の成果（効果）『キーワード：自己存在感・自己有用感の向上』

- 自己存在感の高まり
- 共感的人間関係の育成
- 自己有用感の向上



<児童・生徒の感想より>

・中学生は僕たちに勉強をわかりやすく教えてくれたり、休憩時には自分の友達のように遊んでくれたりしました。ケンカをしていると止めに入って仲直りさせたり、中学生のどの人にもとても尊敬できる場所があって、どんどんまねをして次に中学生として小学校に来るときは、



尊敬してもらえる先輩として来たいです。（小学生）

・小学生にいろいろなことを教え、人のために何かすることができて、本当に充実していました。そして、小学生から「ありがとう」と言われたことがとてもうれしかったです。（中学生）



今後の展開『キーワード：自己有用感・感謝』

- 本年度から、小中連携協議会の目標の副題を「自己有用感を育てる取組を通して」とし、その取組として、学校の行事などで「感謝を伝える場」を設定した。本年度は、各校が独自で取り組んだが、来年度からは小中が連携し、計画的に取組を進めていく。



他校へのアドバイス『キーワード：小中連携』

- 佐伯中学校区では、小中連携協議会の合同部会に教務部会と生徒指導部会を位置づけ、小中学校が積極的に情報交換し、意見交流を図る中で、課題を明らか



にし、9年間を見据えた共通の取組を進めるという「行動連携」を行い、児童の小学校から中学校へのスムーズな移行を推し進めている。また、生徒指導部会では、毎月1回、生徒指導主事が集まり、児童・生徒の様子や取組の状況等を交流し、計画的・継続的な取組を進めている。

